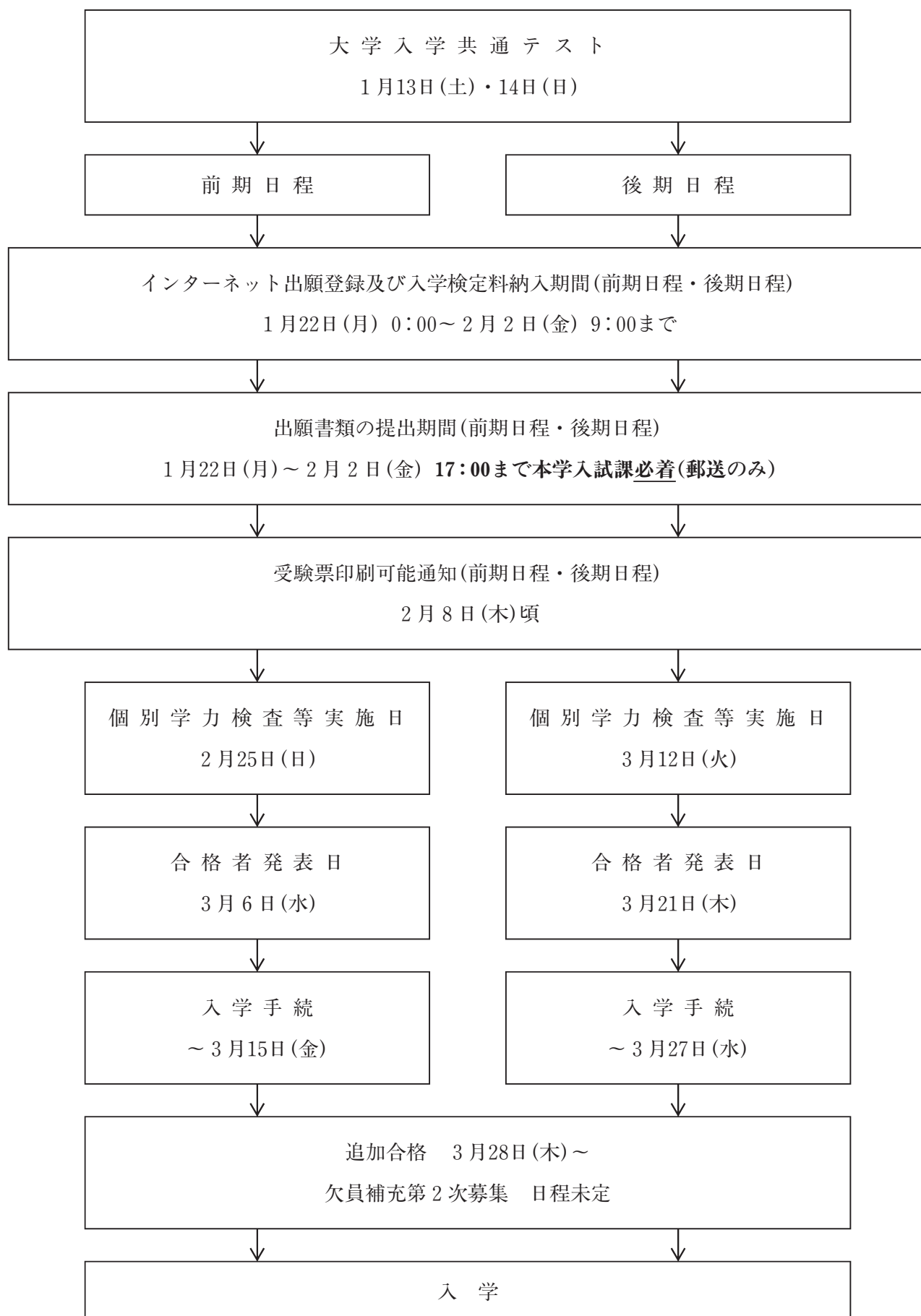


令和6年度

和歌山大学一般選抜学生募集要項

入学者選抜日程の概要



目 次

入学者選抜日程の概要	
入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー).....	1
入学定員及び募集人員.....	7
実施方式及び併願について.....	9
入学者選抜方法等.....	9
出願資格.....	9
個別の入学資格審査について.....	10
受験する教科・科目の確認.....	11
出願手続.....	11
(1) 出願期間.....	11
(2) 出願方法.....	11
(3) インターネット出願サイトの流れ.....	14
(4) 入学検定料.....	18
(5) 出願書類.....	18
(6) 出願上の注意事項.....	22
受験上及び修学上の配慮を必要とする者の事前相談.....	23
受験票及び受験上の注意の印刷.....	27
入学者選抜実施教科・科目等.....	28
(1) 教育学部.....	29
実技検査内容.....	32
(2) 経済学部.....	34
(3) システム工学部.....	36
総合問題の出題内容.....	38
(4) 観光学部.....	39
(5) 社会インフォマティクス学環.....	41
個別学力検査等の試験場及び試験日時.....	43
受験上の注意.....	45
受験者の宿泊について.....	48
合格者発表.....	48
入学手続.....	49
欠員補充.....	51
個人情報の取扱い.....	52
入試情報の開示.....	52
入試成績等の開示.....	53
学部等の紹介.....	55
学生生活.....	61
一般選抜に関する問合せ先.....	62

入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

大学の入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 求める学生像

高等学校あるいはこれに相当する教育機関等における学習や活動を通して、次の知識・技能、能力、態度を有する人を求める。

(1) 知識・技能

・大学入学後の専門を学ぶための基礎となる知識・技能を有する人

(2) 思考力・判断力・表現力

・課題解決に取り組むための基礎となる思考力・判断力・表現力を有する人

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・多様で広い知的関心を持ち、他者と関わって、主体的に学ぼうとする意欲や態度を有する人

・身につけた知識や技能を活用し、課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

【入学後の期待】

入学時に求められる知識・技能、能力、態度をもとに、各学部・学環の専門教育及び教養教育を学修することができるレベルにまで資質・能力を高めることを期待する。

2. 入学者選抜の基本方針

各学部・学環の特性に応じて、求めている資質・能力を適切に評価することができる選抜方法により実施する。

教育学部 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 求める学生像

教育学部では、卒業後に学校教員への就職を志望する、次の各要素を備えた人物を求める。

(1) 知識・技能

・これまでの学びを通して大学入学後の専門的知識を学ぶための基礎となる知識・技能を有する人

(2) 思考力・判断力・表現力

・課題解決に主体的に取り組むための基礎となる思考力・判断力・表現力を有する人

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

・多様で広い知的関心を持ち、他者と関わって学ぼうとする意欲や態度を有する人

・身につけた知識や技能を活用し、課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

【入学後の期待】

入学時に求められる知識・技能、能力、態度をもとに、生涯にわたって「地域とともに学びの未来を拓く教師」として必要な基盤を獲得することを期待する。

2. 入学者選抜の基本方針

(1) 一般選抜(前期日程)では、知識・技能については大学入学共通テスト及び個別学力検査等により、また、思考力・判断力・表現力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については面接により評価し、入学者を選抜する。

(2) 一般選抜(後期日程)では、知識・技能については大学入学共通テストにより、また、思考力・判断

力・表現力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については面接により評価し、入学者を選抜する。

- (3) 学校推薦型選抜では、学校教育に興味を持ち、教職を目指す者として出身学校長より推薦を受けた者のうち、知識・技能については大学入学共通テストにより、また、思考力・判断力・表現力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については面接並びに出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜する。
- (4) 学校推薦型選抜(きのくに教員希望枠)では、学校教育に興味を持ち、教職を目指す者として出身学校長より推薦を受けた者のうち、知識・技能については小論文により、思考力・判断力・表現力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については面接並びに出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜する。
- (5) 学校推薦型選抜(地域【紀南】推薦枠)では、学校教育に興味を持ち、教職を目指す者として出身学校長より推薦を受けた者のうち、知識・技能については小論文により、思考力・判断力・表現力及び主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度については面接並びに出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜する。

経済学部 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 求める学生像

これまでの学びの機会を通して、次の知識・技能、能力、態度を身につけようとしてきた人を求める。

- (1) 知識・技能
 - ・社会の複合的な課題を発見・理解するための幅広い基礎的知識を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力
 - ・認識した課題を分析・解決するための思考力・判断力・表現力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ・解に至る道筋を粘り強く考え続ける能力を有する人
 - ・課題解決の実践にあたり、多様な人々と対話し、協働するためのコミュニケーション能力と意欲を有する人

【入学後の期待】

入学後には、自らがさらに努力を重ね、多くの人と関わり合いながら、経済・社会の活動に関わる諸問題に一層の関心を持ち、これまでに身につけた能力を磨くとともに、複数の専門領域を包摂した教育課程を通して、次の知識・技能、能力を身につけることを期待する。

- (1) 経済学、経営学、会計学、情報学、法学などを中心とした専門知識
- (2) 専門知識を領域横断的に活用した理解力、思考力、表現力
- (3) 主体的に学び、考え、多様な人々と協働する能力

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 一般選抜(前期日程)では、大学入学共通テストと個別学力検査等により入学者を選抜する。大学入学共通テストにおいては、高等学校等で学ぶ各教科の基本的な知識を評価する。個別学力検査等においては、英文を含む総合問題と数学の知識・技能・思考力を問う総合問題を課し、社会科学を学ぶ上で必要な知識、並びにそれを活用する能力を備えているかを評価する。
- (2) 一般選抜(後期日程)では、大学入学共通テストと個別学力検査等により入学者を選抜する。大学入学共通テストにおいては、外国語の理解力と特定分野の知識を、優れた成績を収めた科目に配慮し評価する。個別学力検査等においては総合問題を課し、論理的に考え、判断し、論述する力を評価する。特に、社会科学を学ぶ上で必要な知識、並びにそれを活用する能力を重視する。

- (3) 学校推薦型選抜では、高等学校等において身につける学力のうち、基本的な知識の修得状況と学ぶ意欲、社会科学を学ぶ上で必要な理解力(読解力)・論理的な思考力・表現力(文章力)、他者との議論や協働的な活動の礎となるコミュニケーション能力を、それぞれ出願書類、小論文、及び集団討論により評価し、入学者を選抜する。
- (4) 学校推薦型選抜(スポーツ)では、高等学校等において身につける学力のうち、社会科学を学ぶ上で必要な理解力(読解力)・論理的な思考力・表現力(文章力)を小論文により評価する。これに加えて、基本的な知識の修得状況、顕著な成績を収めたスポーツ活動において培われた主体性や多様な人々と協働する力、及びスポーツの実践、普及、振興についての関心を出願書類と面接により評価し、入学者を選抜する。
- (5) 学校推薦型選抜(簿記)では、高等学校等において身につける学力のうち、社会科学を学ぶ上で必要な理解力(読解力)・論理的な思考力・表現力(文章力)を小論文により評価する。これに加えて、基本的な知識の修得状況、及び経済・経営・商業活動に関する知識・技能・思考力を出願書類と面接により評価し、入学者を選抜する。
- (6) 社会人選抜では、高等学校等の卒業後の社会人経験とそこから得た知見、及び生涯にわたり学び続ける姿勢などを出願書類及び面接により評価し、入学者を選抜する。
- (7) 帰国生徒選抜では、諸外国での学びと日本における学びのためになされた種々の活動を面接と出願書類により評価し、入学者を選抜する。
- (8) 私費外国人留学生選抜では、諸外国での学びを通して得た基礎的な知識と日本に留学するにあたってなされた学びの成果を日本留学試験と出願書類により評価する。あわせて日本語の運用能力を面接により評価し、入学者を選抜する。
- (9) 第3年次一般編入学選抜では、他大学等での学修により身につけた経済学・経営学などに関する知識とそれを活用する思考力・判断力・表現力、及び英語の運用能力をそれぞれ小論文と出願書類により評価する。あわせて、他者と協働・協調する力、あるいは他者をリードする力を面接により評価し、入学者を選抜する。
- (10) 第3年次推薦編入学選抜では、他大学等での学修により身につけた経済学・経営学などに関する知識とそれを活用する思考力・判断力・表現力、及び英語の運用能力を出願書類により評価する。あわせて、他者と協働・協調する力、あるいは他者をリードする力を面接により評価し、入学者を選抜する。

システム工学部 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 求める学生像

システム工学部において入学者に求める知識・技能、能力、態度は次のとおりである。

- (1) 知識・技能
 - ・これまでの学びを通して大学入学後の複数の科学・技術領域を見通し、情報教育を基盤として複合的に工学系分野の専門を学ぶための基礎となる学力・技能、特に理数系における確かな知識を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力
 - ・課題を解決するための思考力・判断力を有する人
 - ・意見や考えを他者や社会に分かりやすく伝えるための表現力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ・他者を尊重し、その意見を受け入れる柔軟性、協調性を有する人
 - ・何事にも好奇心・探求心を持ち、創造力を身につけようとする真摯な態度を有する人

【入学後の期待】

入学後には、自ら学び考える力を持ち、次の観点から、学術・産業研究を含む広範な工学系分野で活躍する自律的な技術者を目指すことを求める。

- (1) 自分自身の思い描くキャリアパスを客観的に考え、それに応じた2つのメジャーを選択すること
- (2) 情報技術に関する基礎知識・技能と、メジャーが提供する専門知識・技能を主体的に修得し、時代や社会が求める実践的な力を身につけること
- (3) 異なる知識や技能を、断片的にはなく体系化して身につけ、課題を解決する能力へと高めること
- (4) 課題解決に向けて、他者と協働して取り組む能力や意見や考えを論理的に伝えるコミュニケーション能力を身につけること
- (5) 広範な視野で専門をより深化させ、産業や社会のニーズに即応できる実践力と創造性を養うこと

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 一般選抜(前期日程)では、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入学共通テストにより、数学的思考力と英語の理解力を個別学力検査等により評価し、入学者を選抜する。
- (2) 一般選抜(後期日程)では、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入学共通テストにより、システム工学を学ぶにふさわしい能力・適性を個別学力検査等により評価し、入学者を選抜する。
- (3) 学校推薦型選抜では、明確な目的意識をもって入学を希望し、かつ、出身学校長より推薦を受けた者のうち、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入学共通テストにより、目的意識や学修意欲などを面接及び出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜する。
- (4) 私費外国人留学生選抜では、日本に留学するためになされた学びの成果を日本留学試験、出願書類、面接により評価する。あわせて、入学後の学修に必要な理解力、論理的思考力、日本語運用能力を面接により評価し、入学者を選抜する。
- (5) 第3年次推薦編入学選抜では、高等専門学校等での学修により身につけた工学系学部に関する基礎学力や専門に対する適性を面接と出願書類により評価する。あわせて、目的意識や学修意欲などを面接により評価し、入学者を選抜する。
- (6) 第3年次一般編入学選抜では、高等専門学校等での学修により身につけた工学系学部に関する専門知識などを学力検査により評価する。あわせて、高等専門学校等での学修により身につけた工学系学部に関する専門知識・技能や目的意識、学修意欲などを面接により評価し、入学者を選抜する。

観光学部 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 求める学生像

観光学部において入学者に求める知識・技能、能力、態度は次のとおりである。

- (1) 知識・技能
 - ・観光学部における専門分野の学修に必要な基礎学力を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力
 - ・主体的かつ積極的に課題に挑戦するための基礎的な思考力・判断力・表現力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ・新しいものごとへの好奇心・探究心、多様な文化・歴史・地理・言語や現代の社会情勢に対する幅広い関心を持ち、他者と関わって学ぼうとする意欲や態度を有する人
 - ・身につけた知識や技能を活用し、主体的かつ創造的に課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

【入学後の期待】

入学時に求められる知識・技能、能力、態度をもとに、観光に関わる諸問題に一層の関心を持ち、観光学部の専門教育及び教養教育を学修することができるレベルまで資質・能力を高めることを求める。

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 一般選抜(前期日程)では、入学後の専門知識と教養を学ぶ基礎となる学力を大学入学共通テストにより、また、思考力・判断力・表現力・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲や態度を個別学力検査等により総合的に評価し、入学者を選抜する。
- (2) 総合型選抜では、入学後の学修に必要な思考力・判断力・表現力・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲や態度を書類審査、指定された課題のプレゼンテーション、出願書類等に基づいた面接により多面的に評価し、入学者を選抜する。
- (3) 学校推薦型選抜では、入学後の専門知識と教養を学ぶ基礎となる学力を大学入学共通テストにより、また、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ意欲や態度を高等学校等で意欲的に取り組んだ活動実績、資格取得等により、さらに入学後の学修に必要な思考力・判断力・表現力を面接及び出願書類により総合的に評価し、入学者を選抜する。
- (4) 社会人選抜では、入学後の学修に必要な理解力・論理的思考力・判断力・表現力を小論文により、また、高等学校等卒業後の社会人経験とそこから得た知見、及び生涯にわたり学び続ける意欲や態度を出願書類及び面接により総合的に評価し、入学者を選抜する。
- (5) 私費外国人留学生選抜では、入学後の学修に必要な理解力・論理的思考力・判断力・表現力に加え、諸外国での学びを通して得た基礎的な知識と日本に留学するにあたっての学ぶ意欲や態度、日本語運用能力を日本留学試験、出願書類、面接により総合的に評価し、入学者を選抜する。

社会インフォマティクス学環 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

1. 求める学生像

社会インフォマティクス学環において入学者に求める知識・技能、能力、態度は次のとおりである。

- (1) 知識・技能
 - ・大学入学後の専門を学ぶための基礎となる知識・技能を有する人
- (2) 思考力・判断力・表現力
 - ・課題解決に取り組むための基礎となる思考力・判断力・表現力を有する人
- (3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
 - ・多様で広い知的関心を持ち、他者と関わって、主体的に学ぼうとする意欲や態度を有する人
 - ・身につけた知識や技能を活用し、課題解決に取り組む意欲や態度を有する人

【入学後の期待】

入学後においては、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、複数の専門領域を包摂した教育課程を通して、テクノロジーに基づく柔軟性を持ち、かつ、社会的通用性を備えた人材として、次の知識・技能、能力を身につけることを期待する。

- (1) ビジネスサイエンス力
 - 社会の現場で必要とされる、社会科学分野のファンダメンタルなモデルを、データエビデンスベースの工学的アプローチを用いて、幅広い知識やノウハウを活用することができる。
- (2) データ利活用力
 - 社会に存在するデータを利用し、何を活用できるのか、また、新たにどのような観点で情報収集すべきかを思考できる。さらには、データを分析し、それを検証して将来の予測に活かすことができる。
- (3) 企画力・実践力・発信力
 - データ分析から導き出された成果を社会の様々な活動に適用し、社会の活性化や新たな付加価値創出につなげていくことができる。

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 一般選抜(前期日程)では、高等学校等で学んだ各教科の基礎的な学習の達成の程度を大学入学共通テストにより、数的理解力、思考力・判断力・表現力については個別学力検査等において評価し、入学者を選抜する。
- (2) 学校推薦型選抜では、高等学校等で学んだ各教科の基本的な知識を大学入学共通テストにより、社会科学ならびにデータエビデンスのアプローチを学ぶ上で必要な思考力・判断力・表現力及び他者との議論や協働的な活動の礎となるコミュニケーション能力を面接により評価し、入学者を選抜する。

入学定員及び募集人員

学部等	学科・課程	入学定員	募 集 人 員										
			一般選抜		特 別 選 抜								
			前期日程	後期日程	学 校 推 薦 型 選 抜	学 校 推 薦 型 選 抜 (きのくに教員希望枠)	学 校 推 薦 型 選 抜 (地域【紀南】推薦枠)	学 校 推 薦 型 選 抜 (スポーツ)	学 校 推 薦 型 選 抜 (簿記)	帰国生徒選抜	社会人選抜	総合型選抜	私 費 外 国 留 学 生 選 抜
教育学部	学校教育教員養成課程	165	90 (備考1参照)	25 (備考1参照)	30 (備考2参照)	10 (備考2参照)	10 (備考2参照)	—	—	—	—	—	—
	小 計	165	90	25	30	10	10	—	—	—	—	—	—
経済学部	経済学科	290	170	80	30	—	—	4	6	若干名	若干名	—	若干名
	小 計	290	170	80	30	—	—	4	6	—	—	—	—
システム工学部	システム工学科	290	160	100	30	—	—	—	—	—	—	—	若干名
	小 計	290	160	100	30	—	—	—	—	—	—	—	—
観光学部	観光学科	115	60	—	35	—	—	—	—	—	若干名	20	若干名
	小 計	115	60	—	35	—	—	—	—	—	—	20	—
社会インフォマティクス学環		30	20	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—
	小 計	30	20	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計		890	500	205	135	10	10	4	6	—	—	20	—

注1 特別選抜の学校推薦型選抜、学校推薦型選抜(きのくに教員希望枠)、学校推薦型選抜(地域【紀南】推薦枠)、学校推薦型選抜(スポーツ)、学校推薦型選抜(簿記)、総合型選抜の合格者が、募集人員に満たない場合には、その差を一般選抜前期日程の募集人員に加えます。

注2 経済学部、システム工学部、観光学部の一般選抜前期日程の募集人員には、私費外国人留学生選抜の募集人員若干名を含みます。

注3 経済学部の一般選抜後期日程及び観光学部の一般選抜前期日程の募集人員には、特別選抜の帰国生徒選抜、社会人選抜の募集人員若干名を含みます。

〔備考〕

- 1 教育学部の学校教育教員養成課程の一般選抜は、次のとおり募集します。

系	専 攻	募 集 人 員	
		前期日程	後期日程
文科系		42	15
理科系		30	10
実技系	音楽又は美術	8	
	保 健 体 育	10	
計		90	25

(注)①文科系又は理科系を受験し、合格した人は、入学後に各コース(学校教育コース、支援教育コース)への所属を決定します。

②実技系を受験し、合格した人は、入学後に学校教育コースへの所属となります。

2 教育学部の学校教育教員養成課程の一般選抜の募集区分と入学後のコース等の対応は下表のとおりです。

募 集 区 分		入学後のコース(専攻)	
文科系	学校教育コース	(教育学、心理学、幼児教育、国語教育、英語教育、社会科教育、家政教育、音楽教育、美術教育、保健体育)	
	支援教育コース	(特別支援教育)	
理科系	学校教育コース	(教育学、心理学、幼児教育、数学教育、科学教育、家政教育、音楽教育、美術教育、保健体育)	
	支援教育コース	(特別支援教育)	
実技系	音楽又は美術	学校教育コース	(音楽教育、美術教育) (実技試験で音楽を選択したものは音楽教育を、美術を選択したものは美術教育をそれぞれ専攻する)
	保健体育	学校教育コース	(保健体育)

(注) 上記の欄は変更されることがあります。

実施方式及び併願について

本学の一般選抜は、分離分割方式による「前期日程」と「後期日程」で実施します。

本学の前期日程に出願する場合は、他の国公立大学・学部等(※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部等を除く)の前期日程との併願はできません。

本学の後期日程に出願する場合は、他の国公立大学・学部等(※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部等を除く)の後期日程との併願はできません。

本学内の学部・学環間又は同一学部内における前期日程と後期日程への出願は可能です。

その場合は、前期日程と後期日程のそれぞれに出願書類を提出し、入学検定料を納めてください。

※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部等は、公立大学協会ホームページ

(<https://www.kodaikyo.org>)を参照してください。

入学者選抜方法等

入学者選抜方法は、令和6年度大学入学共通テストの成績と本学が実施する個別学力検査等の結果及び調査書を総合して行います。

大学入学共通テストの利用教科・科目及び個別学力検査等の実施教科・科目等並びにこれらの配点については、各学部・学環の【入学者選抜実施教科・科目等】を参照してください。

出願資格

次の各号のいずれかに該当し、かつ各学部・学科等が指定する令和6年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目(28～42ページ参照)を受験した者

1. 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び令和6年3月までに卒業見込みの者
2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び令和6年3月までに修了見込みの者
3. 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第150条第1号から第5号の2の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び令和6年3月31日までにこれらに該当する見込みの者

これらの者は以下のとおり。

- ① 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び令和6年3月31日までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び令和6年3月31日までに修了見込みの者
 - ③ 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和6年3月31日までに修了見込みの者
 - ④ 文部科学大臣の指定した者(昭和23年文部省告示第47号)
 - ⑤ 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)及び令和6年3月31日までに合格見込みの者で、令和6年3月31日までに18歳に達するもの
 - ⑥ 高等学校卒業程度認定審査規則(令和4年度文部科学省令第18号)による高等学校卒業程度認定審査に合格した者及び令和6年3月31日までに合格見込みの者で、令和6年3月31日までに18歳に達するもの
4. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの及び令和6年3月31日までに18歳に達するもの

個別の入学資格審査について

出願資格の4により一般選抜に出願しようとする者は、個別の入学資格審査を行いますので、下記を参照の上申請してください。

(申請方法・受付期間)

※事前に提出書類等の指示を行いますので、必ず下記の「申請書類等受付期間」開始前に下記照会先に問い合わせてください。

申請書類等の提出方法は、持参・郵送により受付します。

窓口受付時間は、9時から17時(12時から13時を除く)までとします。

郵送の場合は、封筒表に「一般選抜 入学資格審査提出書類在中」と朱書きし、書留速達郵便にて受付期間内までに和歌山大学入試課に必着するよう郵送してください。

なお、各回受付期間最終日17時を超えて到着のものは受理しません。

※申請書類等に不備がある場合は、申請を受付しないことがありますので十分注意してください。

※申請書類等受理後、別途必要書類を求める場合があります。

(申請書類等受付期間)

第1回 令和5年8月16日(水)～8月22日(火)【17時までに入試課必着】

第2回 令和6年1月15日(月)～1月17日(水)【17時までに入試課必着】

(照会先・申請書類等提出先)

〒640-8510 和歌山市栄谷930

和歌山大学入試課 TEL 073-457-7116 (直通)

(審査結果)

審査の結果、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者に対し、「和歌山大学入学資格認定書」を申請者宛に書留速達郵便にて郵送します。

受験する教科・科目の確認

- ① 出願の際には、28～42ページの「入学者選抜実施教科・科目等」により、各学部・学科等が指定する令和6年度大学入学共通テストの教科・科目を受験していることを確認してください。
- ② 各学部・学科等が指定する令和6年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目(28～42ページ参照)を受験していなければ、出願資格を満たしていないことになり出願できません。出願受付後に、志望する学部・学科等が指定した令和6年度大学入学共通テストの受験を要する教科・科目の不足等による出願無資格者であることが判明した場合は、個別学力検査等の受験はできません。
この場合、検定料の一部を返還することとなります。本学は、出願期間終了後に大学入試センターからの提供データに基づいてのみ、この確認を行います。出願資格を満たしていないことが判明次第、本人へ通知します。なお、本学は、過年度の大学入試センター試験及び大学入学共通テストの成績は利用しません。
- ③ 各学部・学科等が指定する個別学力検査等の教科・科目等の一つでも受験していない者、出願時に届け出た個別学力検査等科目と異なる科目を受験した者は、当該学部・学科等の合格者選考の対象となりませんので注意してください。

出願手続

(1) 出願期間

インターネット出願登録及び入学検定料納入期間
令和6年1月22日(月)0時～2月2日(金)9時まで
出願書類の提出期間
令和6年1月22日(月)0時～2月2日(金)17時まで 必着 出願書類の受付は、郵送によるもののみとし、直接持参しても受理しません。

令和6年2月2日(金)17時までに和歌山大学入試課に必着するように郵便事情を十分考慮し、余裕をもって早めに出願してください。令和6年2月2日(金)17時を超えて到着したものは受理しません。ただし、令和6年2月1日(木)以前の発信局(日本国内に限る)消印のある書留速達郵便で、令和6年2月3日(土)12時(正午)までに和歌山大学入試課に到着したものに限り、例外的に受理します。

(2) 出願方法

以下の手順で出願をしてください。インターネット出願サイトでの登録及び入学検定料納入の流れは14～17ページを確認してください。インターネット出願サイトでの登録及び入学検定料納入だけでは出願は完了しません。すべての出願書類を出願期限までに到着するよう郵送され、「(1) 出願書類の提出期間」内に、到着した出願書類に不備がなくかつ出願資格を有することが確認された時点で出願手続が完了します。

前期日程と後期日程ともに本学に出願する場合は、前期日程及び後期日程のそれぞれにつきインターネット出願サイトでの登録及び入学検定料納入を行い、各試験日程1枚ずつ角型2号(24cm×33.2cm)封筒にそれぞれ別々に出願書類を封入し書留速達郵便で郵送してください(詳細は手順⑥参照)。

手順①	マイページ登録	<p>インターネット出願サイトにアクセスし、マイページ登録をしてください。令和6年1月16日(火)10時からマイページ登録が可能になります。</p> <p>【インターネット出願サイト】 https://e-apply.jp/ds/wakayama-u/</p>
-----	---------	---



手順②	インターネットで出願情報の登録	<p>これ以降の登録は、前記(1)出願期間の「インターネット出願登録及び入学検定料納入期間」に可能となりますので注意してください。</p> <p>必要事項の登録と写真データをアップロードしてください。画面に表示される留意事項をよく確認してください。</p> <p>登録後の変更は一切できませんので、受験学部・学科等の入力内容に誤りがないかよく確認してください。また、住所(番地や号室の入力漏れ等)に誤りがあると、合格通知書や入学手続案内が届かない場合がありますので十分注意してください。</p>
-----	-----------------	---



手順③	受付番号(12桁)のメモ	<p>「インターネット出願で登録した申込内容を確認する場合」と「出願書類を出力する際」に、受付番号(12桁)が必要になりますので必ずメモを控えるか画面を印刷してください。「前期日程」と「後期日程」の両方に出願する場合は、別々の受付番号のメモを必ず控えておいてください。</p>
-----	--------------	--



受付番号(12桁)のメモ												
前	期											
後	期											



手順④	入学検定料の納入	16ページの納入方法から1つ選択し、納入期限までに入学検定料17,000円を払い込んでください。払い込みには、他に払込手数料が必要となります。
-----	----------	---



手順⑤	必要書類の印刷	インターネット出願サイトから「入学志願票」をA4サイズでカラー印刷し、内容に誤りがないか確認してください。
-----	---------	---



手順⑥	出願書類の郵送	インターネット出願サイトからA4サイズでカラー印刷した「宛名シート」を、 <u>市販の角型2号(24cm×33.2cm)封筒に貼付してください。</u> 準備したこの封筒に、18～20ページの出願書類を封入し、 <u>書留速達郵便</u> で郵送してください。送付先はインターネット出願サイトからA4サイズでカラー印刷した「宛名シート」に自動印字されます。必ずこの「宛名シート」を使用してください。 <u>長形3号定型封筒(12cm×23.5cm)は使用できません。</u>
-----	---------	---

(3) インターネット出願サイトの流れ

出願完了までの流れは、以下の通りです



STEP

1

事前準備

インターネットに接続されたパソコン、プリンターなどを用意してください。(スマートフォン、タブレットは非推奨)
出願書類※は、発行まで時間を要する場合があります。早めに準備を始め、出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。

※出願書類…調査書、顔写真データ、共通テスト成績請求票など
詳細は学生募集要項18-20頁参照



STEP

2

インターネット出願サイトにアクセス

インターネット出願サイト ▶ <https://e-apply.jp/ds/wakayama-u/>

または、

大学ホームページ ▶ <https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>

からアクセス



STEP

3

マイページの登録

画面の手順に従って、必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。

※本学よりメールを使って照会することがありますので、日常的に確認しているメールアドレスを使ってご登録ください。なお、マイページの登録がお済みの方は、STEP4に進んでください。



①初めて登録の方は
マイページ登録 から
ログインしてください。



②メールアドレスの登録を行って
仮登録メールを送信 を
クリックしてください。



③ユーザー登録画面から
ログインページへ を
クリックしてください。



④登録したメールアドレスに
初期パスワードと
本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメール
を受信できるように設定してください。



⑤ログイン画面から
登録したメールアドレスと④で
届いた「初期パスワード」にて
ログイン を
クリックしてください。



⑥初期パスワードの変更を
行ってください。



⑦表示された個人情報を入力して
次へ を
クリックしてください。



⑧個人情報を確認して
この内容で登録する を
クリックしてください。



⑨登録完了となります。
マイページへ を
クリックしてください。



⑩上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ、**出願する** ボタンをクリックすると出願手続に進めます。
登録期間外の場合は、これより先に進めませんので **ログアウト** ボタンをおしてください。

STEP

4

出願内容の登録

画面の手順や留意事項を必ず確認して、画面に従って必要事項を入力してください。



①マイページログイン後の
出願する ボタン
から登録画面へ



②入試選択と留意事項の確認



③志望学部等の選択
登録後の変更は一切できませんので、
くれぐれも間違いないように確認して
ください。



④顔写真のアップロード
写真選択へ ボタンをクリックし
写真を選択します。



⑤個人情報(氏名・住所等)の
入力



⑥出願内容の確認
出願書類(サンプル) ボタンを
クリックして、志願票の内容に誤りが
ないか必ず確認すること。



⑦申込登録完了
引き続き支払う ボタンを
クリックし検定料のお支払い画面へ。



⑧入学検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ペイジー対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード



⑨出願に必要な書類PDF
(イメージ)
※検定料納入後に出力可能となります。

入学検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は、支払い方法の
選択後に表示されるお支払いに必要な番号を下記メモ欄に控えたうえ、通知された「お支払い期限」内にコンビニエンス
ストアまたはペイジー対応銀行ATMにてお支払いください。

セブン-イレブンの場合

払込票番号 メモ(13桁)	
------------------	--

ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、ペイジー対応銀行ATMの場合

お客様番号 メモ(11桁)	
確認番号 メモ(6桁)	

デイリーヤマザキ、セイコーマートの場合

オンライン決済 番号メモ(11桁)	
----------------------	--

収納機関番号 (5桁)	58021	※収納機関番号は、ペイジーで お支払いの際に必要となります。
----------------	--------------	-----------------------------------

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は、送信元(@e-apply.jp)からのメール受信を
許可してください。 ※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので、注意してください。



申込登録完了後は、登録内容の修正・変更ができませんので誤入力のないよう注意してください。ただし、入学検定料支払い前であれば正しい出願
内容で再登録することで、実質的な修正が可能です。

※「入学検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は、出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

入学検定料の支払い

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し、支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】

VISA, Master, JCB, AMERICAN EXPRESS, MUFGカード, DCカード, UFJカード, NICOSカード



出願登録時に支払い完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後、ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので、画面の指示に従って操作し、お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されていることが必要です

Webで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

●店頭端末を利用して支払い可能



Loppi



マルチコピー機

あなかも、コンビニ、



各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し、内容を確認してから入学検定料を支払ってください。

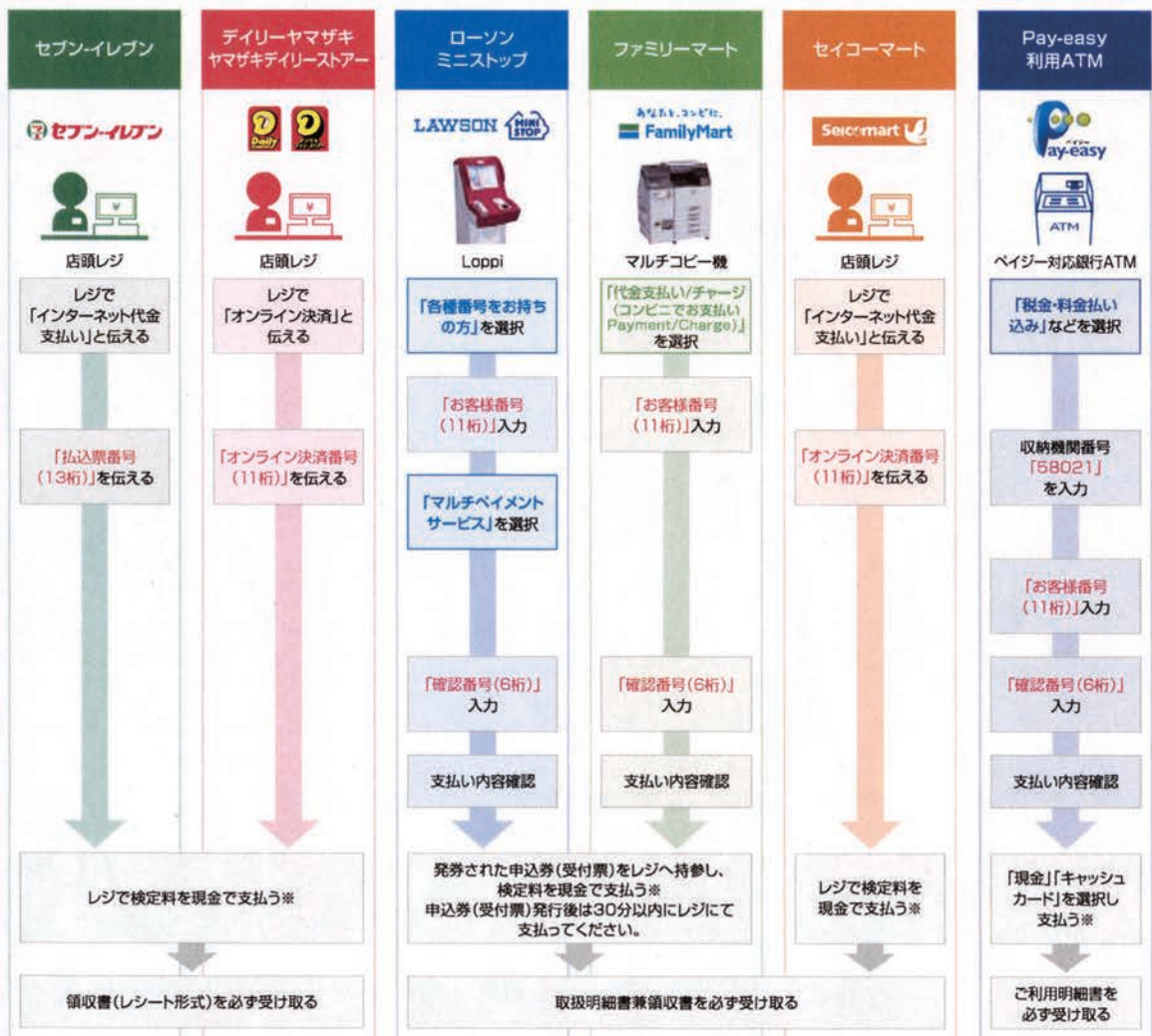
4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて、ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。



※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

3 コンビニエンスストア



※ゆうちょ銀行・銀行ATMを利用する場合、現金で10万円を超える場合はキャッシュカードで支払ってください。コンビニエンスストアを利用の場合は現金で30万円までの支払いとなります。

STEP

6

出願書類の印刷と郵送

登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。

出願登録、入学検定料の支払後にダウンロードできる書類をA4サイズでカラー印刷し、その他の出願書類と併せて出願期間内に本学入試課必着となるよう郵便局窓口から「書留速達郵便」で郵送してください。

■出願書類

郵送が必要な出願書類は18-20ページを参照しあらかじめ準備してください。前期日程、後期日程の両方に出願する場合は、試験日程別に各1部必要です。



宛名シート

出願書類の送付先は宛名シートに自動印字されます。市販の角形2号封筒(24cm×33.2cm)に貼付してください。

「入学志願票」の印刷方法

お支払いが正常に完了すると

[出願書類\(PDF\)の表示](#) のボタンをクリックできる

ようになり入学志願票の出力ができます。

※出願を受理した出願書類、入学検定料は一切返却しません。

〈出願完了〉

出願時の 注意点

出願はインターネット出願サイトでの登録完了後、入学検定料を支払い、出願書類を郵送して完了となります。登録が完了しても出願書類の提出期限に書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。

インターネット出願は24時間可能です。ただし、出願登録は出願締切日9時まで、入学検定料の支払いは出願締切日9時まで(営業時間はコンビニエンスストアやATMなど、施設によって異なります)、出願書類の郵送は出願締切日17時までに本学入試課必着です。ゆとりを持った出願を心がけてください。

STEP

7

受験票、受験上の注意の印刷

詳細は27ページを参照してください。



(4) 入学検定料

1. 入学検定料 17,000円

他に払込手数料が必要となります。

2. 入学検定料返還について

出願を受理した後は、次の場合を除き、いかなる理由があっても払込済の入学検定料は返還しません。ただし、次の場合は、令和6年3月1日(金)までに返還請求を行ってください。

(ア) 入学検定料の全額返還請求ができる者*

- ・検定料払込後、出願書類を提出しなかった者又は出願が受理されなかった者
- ・入学検定料を誤って二重に払い込んだ者

(イ) 入学検定料の一部(13,000円)返還請求ができる者*

- ・出願受理後に大学入学共通テスト受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者

*返還にかかる振込手数料は差し引かせていただきます。

(5) 出願書類

全員アップロードによる提出が必要な出願書類 【ファイルアップロードのみ(郵送不可)】 ※前期日程、後期日程の両方に出願する場合は、それぞれアップロードが必要です。		
番号	出願書類	摘 要
1	写真データ	出願前3か月以内に撮影した顔写真をアップロードしてください。 ・正面向き、無帽、上半身、無背景の顔写真 ・ファイル形式はJPEG、BMP、PNG(推奨サイズは10MB未満)形式 (注1) フォトスタジオ、写真館又は証明写真機で撮影した写真データを推奨します。 (注2) アップロードされた写真は受験時の本人照合に使用するほか、入学後の学生証に使用する可能性があります。なお、写真アップロード後の差し替えはできません。

全員 提出が必要な書類【書留速達郵便による郵送のみ】 ※前期日程、後期日程の両方に出願する場合は、それぞれ提出が必要です。		
番号	出願書類	摘 要
1	入学志願票	インターネット出願サイトからA4サイズでカラー印刷し、「入学志願票」の「令和6共通テスト成績請求票貼付欄」に、各自が出願する試験日程の「 <input type="checkbox"/> 前 国公立前期日程用」又は「 <input type="checkbox"/> 後 国公立後期日程用」のいずれかの「令和6共通テスト成績請求票」を糊で剥がれないように貼付してください。再発行を受けた者は、再発行後のものを貼付してください。必ず、「国公立」の成績請求票であるか確認し糊で貼付してください。
2	令和6共通テスト成績請求票	前期日程志願者 「 <input type="checkbox"/> 前 国公立前期日程用」 後期日程志願者 「 <input type="checkbox"/> 後 国公立後期日程用」 (注意事項) 前期日程と後期日程の両方に出願する場合は、「入学志願票」に記載の試験日程をよく確認し、取り違えて貼付しないよう、注意してください。

3	調査書等	<p>(ア) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び令和6年3月までに卒業見込みの者</p> <p>(イ) 特別支援学校高等部を卒業した者及び令和6年3月までに卒業見込みの者</p> <p>上記(ア)(イ)のいずれかに該当する者は、出身学校長が、文部科学省の定めた様式により作成し、<u>厳封された調査書を提出してください。</u></p> <p>出身高等学校等以外の高等学校等に在学したことがある場合は、在学高等学校等の調査書等(学校長が作成し、厳封されたもの)を併せて提出してください。</p> <p>指導要録の保存期間が経過した場合、廃校・被災その他の事情により調査書が得られない場合には、以下のとおり取り扱います。</p> <p>(1) 「卒業証明書」及び「単位修得証明書」、又は「卒業証明書」及び「学籍に関する記録(各教科・科目等の修得単位数の記録含む)のみを証明した調査書」を提出してください。</p> <p>(2) 上記(1)を提出できない場合は、「卒業証明書」及び学校長が作成した「単位修得証明書を発行できない旨の理由書」を提出してください。</p> <p>(3) 廃校・被災その他の事情により、上記(1)(2)の書類も提出できない場合は、出身学校を所管する教育委員会、知事又は出身学校長が作成した「調査書等を発行できない旨の証明書」を提出してください。</p> <p>また、改姓名等により現在の氏名と書類の氏名が異なる場合は、戸籍抄本等の公的機関が発行した書類の写を添付してください。</p> <p>上記以外の者の調査書等については、21ページ『(注)「高等学校若しくは中等教育学校又は特別支援学校高等部を卒業及び卒業見込み」以外の調査書等について』のとおりとします。</p>
4	宛名シート	<p>市販の角型2号(24cm×33.2cm)封筒を準備し、インターネット出願サイトから「宛名シート」をA4サイズでカラー印刷し、封筒の表に貼付してください。前期日程と後期日程の両方に出願する場合は、必ず各試験日程につき1枚ずつ角型2号(24cm×33.2cm)封筒を用いて封筒の表に糊でしっかりとはがれないよう貼付してください。1枚の封筒に複数の試験日程の出願書類を封入しないでください。長形3号定型封筒(12cm×23.5cm)は使用できません。</p> <p>(誤封入防止のためのチェック事項)</p> <p>前期日程に出願する場合は、</p> <p><input type="checkbox"/> 「宛名シート」が前期日程であるか</p> <p><input type="checkbox"/> 入学志願票が前期日程であるか</p> <p><input type="checkbox"/> 入学志願票に貼付した令和6共通テスト成績請求票が「<input type="text" value="前"/> 国公立前期日程用」であるか</p> <p>後期日程に出願する場合は、</p> <p><input type="checkbox"/> 「宛名シート」が後期日程であるか</p> <p><input type="checkbox"/> 入学志願票が後期日程であるか</p> <p><input type="checkbox"/> 入学志願票に貼付した令和6共通テスト成績請求票が「<input type="text" value="後"/> 国公立後期日程用」であるか</p>

前期日程 教育学部学校教育教員養成課程実技系 音楽 志願者のみ提出が必要な書類
【書留速達郵便による郵送のみ】

番号	出願書類	摘 要
1	楽譜の写	<p>「前期日程 教育学部学校教育教員養成課程実技系 音楽」に出願する者のみ提出してください。</p> <p>提出が必要な楽譜の詳細は、32ページの「実技検査内容」により確認してください。</p>

(注)「高等学校若しくは中等教育学校又は特別支援学校高等部を卒業及び卒業見込み」以外の調査書等について

1. 高等専門学校第3年次修了者及び修了見込みの者並びに文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び修了見込みの者の調査書(学校長が作成し、厳封したもの)については、文部科学省所定の様式に準じて作成したものを提出してください。
2. 高等学校卒業程度認定試験合格者及び大学入学資格検定合格者は、合格成績証明書(合格証明書とは異なります)を提出してください。
なお、試験免除科目がある場合は、免除要件に係る証明書(高等学校等の調査書又は成績証明書、各種技能検定の合格証明書)を併せて提出してください。また、合格に必要な残りの試験科目に相当する科目の単位を令和6年3月31日までに高等学校等で修得見込みの者は、文部科学省が発行する合格見込成績証明書を提出してください。
3. 高等学校卒業程度認定審査合格者は、合格証明書及び高等学校卒業程度認定審査の出願・審査の際に提出した成績証明書等(高等学校等の調査書又は成績証明書、大学における成績証明書)を提出してください。
4. 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び修了見込みの者は、修了(見込)証明書及び成績証明書を提出してください。また、日本国の高等学校等に在学したことがある場合は、在学高等学校等の調査書(学校長が文部科学省所定の様式により作成し、厳封したもの)を併せて提出してください。
5. 文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の学科を修了した者及び修了見込みの者は、成績証明書及び修了(見込)証明書を提出してください。
6. 国際バカロレア資格を取得した者は、国際バカロレア資格証書の原本証明された写と国際バカロレア(IB)最終試験6科目の成績評価証明書を提出してください。
7. アビトゥア資格を取得した者は、アビトゥア資格取得者に授与される一般的大学入学資格証明書の原本証明された写を提出してください。
8. フランス共和国のバカロレア資格を取得した者は、バカロレア資格証書の原本証明された写とバカロレア資格試験成績証明書を提出してください。
9. GCEAレベル資格を取得した者は、GCEAレベル試験において、1科目以上合格していることを証明する書類を提出してください。
10. 国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI)から教育活動等に係る認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程を修了した者は、当該教育施設が国際的な評価団体(WASC、CIS、ACSI)から認定を受けていることが確認できる書類、12年の課程を修了した証明書及び成績証明書を提出してください。
11. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者は、和歌山大学入学資格認定書の写を提出してください。
12. 出願資格に該当する者で、19ページ及び上記に記載がない場合は、出願資格を証明できる書類及び成績証明書を提出してください。

※証明書等が英語以外の外国語で作成されている場合、日本語又は英語に翻訳し、その内容が原本と相違ないことを大使館等で証明を受けたものを添付してください。

※成績証明書で、科目名、成績評価等が符号又は略字等により表示されている場合は、その説明書を添付してください。

(6) 出願上の注意事項

(共通事項)

1. 国公立大学・学部等(※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部等を除く)の学校推薦型選抜合格者で入学手続を行った者及び当該大学の許可を得ずに入学を辞退した者は、個別学力検査等を受験しても合格者にはなりません。
2. 国公立大学・学部等(※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部等を除く)の総合型選抜に合格し、入学手続を行った者及び当該大学の許可を得ずに入学を辞退した者は、個別学力検査等を受験しても合格者にはなりません。
3. 国公立大学・学部等(※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部等を除く)の「前期日程」に合格し、入学手続を行った者は、「後期日程」を受験しても合格者にはなりません。
4. 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名、性別、生年月日、高等学校等コード及び大学入学共通テストの受験番号に限り、合否及び入学手続等に関する個人情報、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。
5. 調査書等の出願書類に記入する文字は黒のボールペン書き(摩擦等の温度変化で筆跡が透明化するボールペンは使用不可)とし、楷書で正確に記入してください。
6. 「出願書類の提出期間」内に、出願書類が到着しない場合及び出願書類に不備、不足がある場合は受付が完了しません。
7. 調査書等の記載事項を訂正する時は、誤記部分を2本線で抹消しその上に訂正印を押印してください。修正液類の使用や紙面の削り取り等はしないでください。
8. インターネット出願登録後の登録内容の変更は、認めません。ただし、**出願後、転居等の理由により、住所、連絡先に変更があった場合は、志願者本人の健康保険証等の公的な身分証明書の写を添付し、直ちに和歌山大学入試課まで簡易書留速達郵便で届け出てください。**
9. 受付された出願書類は、いかなる理由があっても返還しません。
10. 出願書類等に虚偽の記載や詐称があることが判明した場合は、入学後であっても入学許可を取り消すことがあります。
11. 出願時に大学に在籍している者が、入学試験後に合格し、本学に入学する場合には、在籍している大学を退学する必要があります。ただし、受験に際しては、この限りではありません。

(教育学部を志望する場合の出願上の注意事項)

1. 教育学部志望者は、「文科系」、「理科系」、「実技系 音楽又は美術」、「実技系 保健体育」からいずれか1つを出願時に選択してください。なお、実技系の募集は前期日程のみです。

受験上及び修学上の配慮を必要とする者の事前相談

障がいのある者等、受験上及び修学上の配慮を必要とする者は、事前に電話連絡した上で事前相談の申請をしてください。「点字解答」又は「代筆解答」を希望する場合は、準備に相当な期間を要しますので、なるべく早く相談してください。

日常生活において、ごく普通に使用している補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験する場合、受験上の配慮の申請が必要となりますので、申請し忘れないよう、十分に注意してください。

なお、座布団、ひざ掛け、タオル(サイズは問わない)、ティッシュペーパー、ハンカチ、目薬については、受験上の配慮の申請は不要です。

また、出願受付締切後の不慮の事故等による負傷者についても、受験上及び修学上の配慮が必要となった場合は、その時点で速やかに申し出てください。

配慮内容の一例については以下のとおりです。

配慮の区分	対象となる者	受験上の配慮の一例
ア. 視覚に関する配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・点字による教育を受けている者 ・両眼の矯正視力がおおむね0.3未満の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者 ・視力以外の視機能障害(注1)が高度の者のうち、拡大鏡等の使用によっても通常の文字、図形等の視覚による認識が不可能又は著しく困難な程度の者 ・上記以外で視覚に関する配慮を必要とする者 	<ul style="list-style-type: none"> ・点字解答 ・試験時間の延長(1.3倍、点字解答は1.5倍) 【別室の設定】 ・試験室入口までの付添者の同伴 ・試験場への乗用車での入構 ・拡大文字問題冊子の配付 ・拡大解答用紙の配付 ・拡大鏡等の持参使用 ・窓側の明るい座席を指定 ・照明器具の持参使用又は試験場側での準備
イ. 聴覚に関する配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・両耳の平均聴力レベル(注2)が60デシベル以上の者 ・上記以外で聴覚に関する配慮を必要とする者 	<ul style="list-style-type: none"> ・手話通訳士等の配置(両耳の平均聴力レベル(注2)が原則として60デシベル以上の者) ・注意事項等の文書による伝達(注3) ・座席を前列に指定 ・補聴器又は人工内耳の装用(注4)
ウ. 肢体不自由に関する配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・体幹の機能障害により座位を保つことができない者又は困難な者 ・両上肢の機能障害が著しい者 ・上記以外で肢体不自由に関する配慮を必要とする者 	<ul style="list-style-type: none"> ・試験時間の延長(1.3倍)【別室の設定】 ・介助者の配置(注5) ・1階又はエレベーターが利用可能な試験室で受験 ・洋式トイレ又は障害者用トイレに近い試験室で受験 ・特製机・椅子の持参使用又は試験場側での準備 ・車椅子の持参使用 ・杖の持参使用(注6) ・試験室入口までの付添者の同伴 ・試験場への乗用車での入構

配慮の区分	対象となる者	受験上の配慮の一例
エ. 病弱に関する配慮	・慢性の呼吸器疾患、心臓疾患、腎臓疾患、消化器疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者	・1階又はエレベーターが利用可能な試験室で受験 ・杖の持参使用(注6) ・試験室入口までの付添者の同伴 ・試験場への乗用車での入構 ・別室の設定(注7) ・トイレに近い試験室で受験 ・座席を試験室の出入口に近いところに指定
オ. 発達障害に関する配慮	・自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥移動障害のため配慮を必要とする者	・別室の設定(注7) ・試験室入口までの付添者の同伴
カ. その他	ア～オの区分以外の者で配慮を必要とする者	・トイレに近い試験室で受験 ・座席を試験室の出入口に近いところに指定 ・別室の設定(注7)

- (注1)の「視力以外の視機能障害」とは、視野狭窄しやきょうさくのような視野障害、明るいところがまぶしく感じたり、暗いところが見えにくい明暗順応の障害、眼球が自分の意思とは関係なく動いたり揺れたりする眼球振盪がんきゅうしんとう(眼振)などが該当します。
- (注2)の「両耳の平均聴力レベル」とは、右耳・左耳それぞれの平均聴力レベルであることを意味します。
- (注3)の「注意事項等の文書による伝達」とは、試験室で監督者が口頭で指示することを文書にし、受験者に配付するものです。
- (注4)を希望する場合で、FM電波等の受信機能がある場合は、その受信機能のスイッチを切ってください。
- (注5)の介助者とは、特別支援学校の教員等で、**試験時間中**における受験者の姿勢の変換や**トイレ介助**などの**専門的な介助**を行う者のことです。監督者等でも行うことができるような簡易的な介助を行う者ではありません。
- (注6)については、杖の持参使用のみを希望する者は、**申請書の提出は必要**となりますが、医師の診断書の提出は不要です。
- (注7)の別室については、**受験者の症状及び受験方法(試験時間延長の有無等)**によって、**別室を許可された他の受験者と同室**になります。特に個室(受験者1名)を希望する場合で本学が別途必要書類等を求める場合があります。本学が必要と判断した場合には、本学の施設数面及び志願者数の状況に応じ、可能な範囲で個室とします。

申請方法

事前に電話連絡した上で、申請期限までに次の事項を記載した申請書(A 4用紙に下記必要事項を明記)及び必要書類を本学入試課に提出してください。

持参・郵送により受付します。持参の場合は、原則として9時から17時(12時から13時を除く)までとします。郵送で送付する場合は、必ず「書留速達」郵便で送付してください。

申請期限

点字等受験上の特別な準備を必要とする者については、**令和5年12月13日(水)**までに下記申請書及び必要書類を提出してください。受験上の特別な準備を要しないその他の配慮を必要とする者は、原則として令和6年1月15日(月)までに申請してください。内容によっては対応に時間を要しますので、できるだけ早い時期に相談してください。

なお、場合により、志願者又はその立場を代弁し得る出身学校等関係者と面談を行います。

※期日までに申請の無い場合や、相談の内容によっては、配慮が講じられない場合があります。

申請書の記載内容

	内 容	備 考
全員	志願者氏名(ふりがな)	例外として、志願者が負傷等により自ら申請することができない場合は、志願者氏名に代理人氏名(父母又は出身学校担任)を併記してください。
全員	志願者郵便番号及び住所	
全員	志願者電話番号	
全員	出身学校名	
該当者のみ	卒業年月日又は卒業見込年月日	
全員	出願予定の試験日程及び学部・学環・学科・課程・系(実技系の場合は音楽・美術・保健体育のいずれか)	「前期日程」及び「後期日程」の別を記載してください。 いずれの日程も出願予定の場合は、二つの日程を併記してください。 <u>出願を予定している試験日程ごとに出願予定学部・学環・学科・課程・系(実技系の場合は音楽・美術・保健体育のいずれか)を記載してください。学部・学環名以外は予定で差し支えありません。</u>
該当者のみ	受験上の配慮を希望する事項	できるだけ詳細に記入してください。
該当者のみ	修学上の配慮を希望する事項	
該当者のみ	出身学校でとられていた配慮	担任教諭の氏名・所見が記入されたもの

【参考】申請書様式例 必ず「申請書の記載内容」の表を確認し整えてください。

令和 年 月 日
<p>(必ずA 4判で提出してください)</p> <p>和歌山大学長 殿</p> <p style="text-align: center;">(ふりがな) 志願者氏名 志願者郵便番号及び住所 志願者電話番号</p> <p style="text-align: center;">障がい等により受験上及び修学上の配慮を必要とする入学志願者の事前相談について</p> <p>貴大学への入学を志願するため、下記のとおり相談いたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 出身学校名 2. 卒業年月日又は卒業見込年月日 3. 出願予定の試験日程及び学部・学環・学科・課程・系(実技系の場合は音楽・美術・保健体育のいずれか) 4. 受験上の配慮を希望する事項 5. 修学上の配慮を希望する事項 6. 出身学校でとられていた配慮 担任氏名 所見 <p>(添付書類) 大学入学共通テスト「受験上の配慮事項決定通知書」の写、医師の診断書の写</p>

必要書類 ※別途必要書類を求める場合があります。

	内 容	備 考
全員	医師の診断書の写	障がい等の名称・種類・程度、具体的な症状とその経過、日常生活上(特に修学上)の支障の程度、受験に際し想定される問題とその具体的理由について記載された診断書の写を添付してください。 <u>本学が求める記載がなされている場合限り</u> 、大学入学共通テストの受験上の配慮を申請した者は、申請時に添付した診断書の写を添付しても構いません。
該当者のみ	大学入学共通テスト「受験上の配慮事項決定通知書」の写	<u>大学入試センターから「受験上の配慮事項決定通知書」の交付を受けた者は、その写を必ず添付してください。</u>
該当者のみ	障がい者手帳の写	

連絡及び申請書提出先

〒640-8510 和歌山市栄谷930番地

和歌山大学入試課

TEL 073-457-7116

受験票及び受験上の注意の印刷

出願が受理された志願者には、2月8日(木)(予定であり、処理の関係により数日遅れる場合があります。)に「受験票、受験上の注意印刷可能メール」が出願時に登録したメールアドレスに配信されますので、インターネット出願サイトから「令和6年度和歌山大学一般選抜受験票(以下、「和歌山大学受験票」という。)」及び「受験上の注意」をA4サイズで印刷してください。「和歌山大学受験票」を印刷する際は、裏面は白紙であることが必要です。表面及び裏面に不要な印字等がある場合は不正行為となる場合があります。前期日程と後期日程の両方に出願している場合は、それぞれ出力してください。

(受験票に関する注意事項)

1. 「和歌山大学受験票」及び「受験上の注意」を印刷後、内容を確認してください。パソコン等に表示された受験票(PDF)の受験番号と、受験票(PDF)印刷後の受験番号が一致していることを必ず確認してください。インターネット出願登録した際の受付番号は受験番号ではありません。
2. 試験当日は、「和歌山大学受験票」は表面を上につまみ折りにし印字部分が確認できるよう机の上に置いてください。
3. 本学の前期日程と後期日程の両方に出願した者は、前期日程と後期日程の受験票を誤って持参しないよう注意してください。
4. 試験当日、スマートフォン等による受験票の画面提示による受験は認めません。必ず所定のサイズに印刷した受験票を持参してください。
5. 「和歌山大学受験票」及び「大学入学共通テスト受験票」は、個別学力検査等の受験、入学手続、入試成績等の開示の際に必要となりますので、試験終了後、入学後も大切に保管してください。

入学者選抜実施教科・科目等

教科・科目名の表記

本学における大学入学共通テストの利用教科・科目名は次のように一部略記しています。

() 内は正式名称です。

教科名	グループ	科 目 名
国 (国語)		国 (国語)
地歴 (地理歴史)		世A (世界史A)、世B (世界史B)、日A (日本史A)、 日B (日本史B)、地理A、地理B
公民		現社 (現代社会)、倫 (倫理)、政経 (政治・経済)、 倫・政経 (倫理、政治・経済)
数 (数学)	①	数I (数学I)、数I・数A (数学I・数学A)
	②	数II (数学II)、数II・数B (数学II・数学B)、簿 (簿記・会計)、 情報 (情報関係基礎)
理 (理科)	①	物基 (物理基礎)、化基 (化学基礎)、生基 (生物基礎)、 地基 (地学基礎)
	②	物 (物理)、化 (化学)、生 (生物)、地 (地学)
外 (外国語)		英 (英語)、独 (ドイツ語)、仏 (フランス語)、中 (中国語)、 韓 (韓国語)

本学における個別学力検査の教科・科目名は次のように一部略記しています。

() 内は正式名称です。

教科名	科 目 名
国 (国語)	国語総合
数 (数学)	数I (数学I)、数II (数学II)、数III (数学III)、数A (数学A)、 数B (数学B)
外 (外国語)	コミュ英I (コミュニケーション英語I)、 コミュ英II (コミュニケーション英語II)、 コミュ英III (コミュニケーション英語III)、英表I (英語表現I)

(1) 教育学部

入学者選抜実施教科・科目等

教育学部

学部・学科等名及び入学定員等	学力検査等の区分・日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等										特別の入試方法等		
		教科グループ	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	面接		実技	配点合計
教育学部 前期 165人 後期 90人 その他 25人 50人	前期 2月25日	文科系 57人	国 世A、世B、HA、HB、地理A、地理B } から2	国語総合 面接	大学入学共通テスト	200	*200	*200	200	100	300						1200	
			現社、倫、政経、倫・政経 } から2			200	*200											
	後期 3月12日	理 ① ②	① 数I・数A 物基、化基、生基、地から2	その他	面接	個別学力検査等	400	*200	*200	200	100	300						1700
			② 物、化、生、地 から1 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【6教科8(7)科目又は5教科8(7)科目】				200	*100	*100	200	200	200						
教育学部 前期 40人 後期 30人 その他 10人	前期 2月25日	理科系 40人	国 世A、世B、HA、HB、地理A、地理B } から1	数I・数A 面接	大学入学共通テスト	200	*100	*100	200	400	300						1200	
			現社、倫、政経、倫・政経 } から1					200										500
	後期 3月12日	理 ① ②	① 数II・数B、簿、情報から1	その他	面接	個別学力検査等	200	*100	*100	200	400	300						1700
			② 物、化、生、地 から2 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【5教科7科目】				200	*100	*100	200	200	200						
学校 教育 教員 養成 課程	前期 2月25日	実技系 「音楽又は美術」 前期 8人	国 世A、世B、HA、HB、地理A、地理B } から2又は1 ※	実技検査 ＜詳細は、P32・33を参照してください＞ 面接	大学入学共通テスト	200	*100	*100	200	100	300						1000	
			現社、倫、政経、倫・政経 } から2又は1 ※															
	後期 2月25日	理 ① ②	① 数I・数A 物基、化基、生基、地から2 ※	その他	面接	個別学力検査等												700
			② 物、化、生、地 から1 ※ 又は 物、化、生、地 から2 ※ 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【1地歴、1公民 から2科目と「理①」から1科目の組合せ 6教科8科目又は5教科8科目】 【1地歴、1公民 から2科目と「理②」から1科目の組合せ 6教科7科目又は5教科7科目】				200	*100	*100	200	100	300						
教育学部 前期 10人	前期 2月25日	実技系 「保健体育」 前期 10人	国 世A、世B、HA、HB、地理A、地理B } から2又は1 ※	実技検査 ＜詳細は、P33を参照してください＞ 面接	大学入学共通テスト	200	*100	*100	200	100	300						1000	
			現社、倫、政経、倫・政経 } から2又は1 ※															
	後期 2月25日	理 ① ②	① 数I・数A 物基、化基、生基、地から2 ※	その他	面接	個別学力検査等												700
			② 物、化、生、地 から1 ※ 又は 物、化、生、地 から2 ※ 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【1地歴、1公民 から2科目と「理①」から1科目の組合せ 6教科8科目又は5教科8科目】 【1地歴、1公民 から2科目と「理②」から1科目の組合せ 6教科7科目又は5教科7科目】				200	*100	*100	200	100	300						

【大学入学共通テストの利用教科・科目名】欄

以下の説明において、「理科」で基礎を付した科目を「理①」、基礎を付していない科目を「理②」とします。

〔前期日程・後期日程共通〕

1. 外国語の「英語」において、リーディングとリスニングを課します（リスニングが免除となった場合を除き、リーディング及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります）。

〔学校教育教員養成課程（文科系）（前期日程・後期日程）〕

1. 「理科」において、「理②」2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

2. 「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の2科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。

〔学校教育教員養成課程（理科系）（前期日程・後期日程）〕

1. 「地歴」、「公民」において、2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

〔学校教育教員養成課程（実技系）（前期日程）〕※

1. 「地歴」、「公民」及び「理科」において、以下のa、b、cのうち、いずれかの組合せとします。

- a. 「地歴」、「公民」から2科目と「理①」から2科目の組合せ
- b. 「地歴」、「公民」から2科目と「理②」から1科目の組合せ
- c. 「地歴」、「公民」から1科目と「理②」から2科目の組合せ

2. 「地歴」、「公民」から2科目受験した場合で、「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の2科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。

3. 「地歴」、「公民」から2科目かつ「理②」から2科目受験した場合は、以下のa、bのうち、いずれか高得点の組合せを採用します。

- a. 「地歴」、「公民」の2科目と「理②」の第1解答科目の組合せ
- b. 「地歴」、「公民」の第1解答科目と「理②」の2科目の組合せ

【個別学力検査等】欄

1. 国語総合は、近代以降の文章、古典（漢文を除く）を出題範囲とします。

2. 数学I、数学II、数学Aは、全範囲を出題範囲とします。数学Bは、数列、ベクトルを出題範囲とします。

【大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等】欄

1. 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。

2. 大学入学共通テスト 外国語の「英語」において、リーディング（100点満点）とリスニング（100点満点）の合計点（200点満点）を英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、リーディング（100点満点）の得点を2倍（200点満点）にしたものを英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。

教育学部実技検査内容

課程・系		学校教育教員養成課程実技系		
実施日程		前期日程		
専攻	区 分	選択種目	検 査 内 容	注意事項
音 楽	実技Ⅰ群	A. 声楽	<p>○次の曲を原語・暗譜で演奏してください。</p> <p>○調性は任意で良いが、演奏する調性の伴奏用の楽譜のコピーを他の出願書類とともに1部提出してください。(伴奏は大学側が用意します。)</p> <p>A. カルダーラ作曲「Sebben, crudele (たとえ つれなくても)」</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <p>高中声用は全音楽譜出版社刊『イタリア歌曲集1』、低声用はカワイ出版刊『古典イタリア歌曲集5』を使用してください。</p> </div>	<p>選択種目の組合せ</p> <p>選択種目の組合せは以下の3とおりとします。</p> <p>いずれかひとつの組合せを選択してください。</p> <p>Aと2、Bと1、Cと2</p> <p>※ 選択種目は、入学後の専門領域を意味するものではありません。</p>
		B. ピアノ	<p>○次の曲を暗譜で演奏してください。(くり返しは省略します。)</p> <p>L.van ベートーヴェン作曲「ピアノソナタ No. 6 Op.10-2 第1楽章」</p>	
		C. 管・打楽器	<p>○任意の1曲を無伴奏で演奏してください。</p> <p>○暗譜の必要はありません。(演奏時間が長い場合は、途中でカットすることがあります。)</p> <p>○演奏する楽曲の楽譜のコピーを他の出願書類とともに1部提出してください。</p> <p>○楽器及び演奏に必要なものは各自持参してください。但し、マリンバの場合、大学で用意する楽器(こおろぎLV2400CF <5・½オクターヴ、66鍵、C16～F81>)で演奏してください。</p> <p>【受験可能楽器】</p> <p>フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、サクソフォーン、ホルン、トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、マリンバ、スネア・ドラムからひとつを選択</p>	
	実技Ⅱ群	1. 声楽	<p>○次の曲を暗譜の上、母音のaで演奏してください。</p> <p>○調性は任意で良いが、演奏する調性の伴奏用の楽譜のコピーを他の出願書類とともに1部提出してください。(伴奏は大学側が用意します。)</p> <p>『コンコーネ50番』より10番</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <p>全音楽譜出版社刊『コンコーネ50番』を使用してください。</p> </div>	
		2. ピアノ	<p>○次の曲を暗譜で演奏してください。(くり返しは省略します。)</p> <p>W.A.モーツァルト作曲「ピアノソナタ No.16 KV545 第1楽章」</p>	

美術	<p style="text-align: center;">共通</p> <p style="text-align: center;">〔全員が受験してください。〕</p>	<p>造形表現</p> <p>与えられた主題を配付された素材で立体的に表現し、鉛筆を用いて素描してください。</p> <p style="text-align: right;">(試験時間：180分)</p>	<p>持参物</p> <p>素描用黒鉛筆、練り消しゴム、プラスチック消しゴム、カッターナイフ、30cmの直定規、三角定規(一組)、コンパス</p> <p>※その他の道具等はすべて大学で用意します。</p>
保健体育	<p style="text-align: center;">共通</p> <p style="text-align: center;">〔全員が受験してください。〕</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 立ち幅とび 2. 反復横とび 3. マット運動 4. 持久走 (12分間走又は20mシャトルラン) 5. 50m走 6. 50mハードル走 7. メディシンボール投げ (後方投げ、男子4kg 女子3kg) 	<p>○屋外用シューズと体育館シューズを用意してください。</p> <p>○屋外用シューズとしてスパイクシューズは使用できません。</p>

(2) 経済学部

入学者選抜実施教科・科目等

経済学部

学部・学科等名及び入学定員等 ・日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等							特 別 の 入 試 方 法 等					
	学 科 グループ	科 目 名 等	教 科 等	科 目 名 等	2 段 階 選 抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科		外国語	総合 問題A	総合 問題B	総合 問題 (後期)	配点 合計
経済学部 290人 前期 170 後期 80 その他 40	経済学科	国 世B、日B、地理Bから1又は2 現社、倫、政経、倫・政経から0又は1 } から2 数 ① 数I・数Aから1 ② 数II・数B、簿、情報から1 ① 物基、化基、生基、地基から2 又は ② 物、化、生、地 から1 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【6教科8(7)科目又は5教科8(7)科目】	その他	総合問題A 総合問題B	大学入学共通 テスト 個別学力検査 等	200	100 *100	*100	200	100	200	200				900	学校推薦型 選抜 学校推薦型 選抜 (スポーツ) 学校推薦型 選抜(簿記) 帰国生徒選抜 社会人選抜 私費外国人 留学生選抜
		国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理Bから1又は2 現社、倫、政経、倫・政経から1 数 ① 数I・数Aから1 ② 数II・数B、簿、情報から1 ① 物基、化基、生基、地基から2 又は ② 物、化、生、地 から1 英 (リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【3教科4(3)科目又は2教科3科目】	その他	総合問題(後期) (与えられた文章を理解し、関 連する資料(図・数表・英文 資料等を含む)に基づいて、 論理的に考え、判断し、論述 する力を問う問題により、社 会科学を学ぶ上で必要な知識、 並びにそれを活用する能力を 備えているかどうかを問う。)	大学入学共通 テスト 個別学力検査 等	*100	*100 *100	*100	*100	*100	*100	*100	400	400	400	600	追加合格

【大学入学共通テストの利用教科・科目名】欄

以下の説明において、「数学」で【数I、数I・数A】を「数①」とし、【数II、数II・数B、簿、情報】を「数②」とします。「理科」で基礎を付した科目を「理①」、基礎を付していない科目を「理②」とします。

【前期日程・後期日程共通】

1. 外国語の「英語」において、リーディングとリスニングを課します (リスニングが免除となった場合を除き、リーディング及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります)。

【前期日程】

1. 「地歴」【世B、日B、地理B】から必ず1科目以上を受験してください。

2. 「理科」において、「理②」2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

3. 「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の2科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。

【後期日程】

指定教科数・科目数を超過して受験している場合には、次のa、b、cの中から最も高得点となる組合せを採用します。

- 「地歴」2科目の組合せ
- 「地歴」1科目と「公民」1科目の組合せ
- 以下から2つの組合せ
 - ・「国」
 - ・「地歴」、「公民」の第1解答科目

- ・「数①」
- ・「数②」
- ・「理①」2科目の合計得点又は「理②」第1解答科目の得点のいずれか高い方

【個別学力検査等】欄

【前期日程】

社会科学を学ぶ上で必要な知識、並びにそれを活用する能力を備えているかどうかを問います。

1. 総合問題Aは、与えられた文章(英文を含む)を理解し、関連する資料(図・数表・英文資料等を含む)に基づいて、論理的に考え、判断し、論述する力を問います。

2. 総合問題Bは、数学的思考力を問います。数学I、数学II、数学A、数学B(数列・ベクトル)で学ぶ内容の理解を前提として出題します。

【大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等】欄

1. 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。

2. 大学入学共通テスト 外国語の「英語」において、リーディング(100点満点)とリスニング(100点満点)の合計点(200点満点)を英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、リーディング(100点満点)の得点を2倍(200点満点)にしたものを英語の得点とし、本学部が定めている配点に換算します。

(3) システム工学部

入学者選抜実施教科・科目等

システム工学部

学部・学科等名及び入学定員等 等の区分	学力検査等の区分・日程		大学入学共通テストの利用教科・科目名			個別学力検査等		大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等								特 入 試 方 法 等	
	教科 グループ	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	小論文	実技		配点 合計
システム工学部 290人 前期160 後期100 その他30	国 地歴 公民 数 ① ② ②	国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1 物、化、生、地から2 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【5教科7科目】	数 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B コミュ英Ⅰ・コミュ英Ⅱ・コミュ英Ⅲ・ 英表Ⅰ		大学入学共通 テスト	200	*100	*100	200	400	200				1100	学校推薦型 選抜 私費外国人 留学生選抜
						個別学力検査 等				200			200				
					計	200	*100	*100	400	400	400					1500	追加合格
	国 地歴 公民 数 ① ② ②	国 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1 物、化、生、地から2 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【5教科7科目】	数 外	その 総合問題 <詳細は、P38を参照してください>		大学入学共通 テスト	200	*100	*100	300	300	200				1100	
						個別学力検査 等							400				
					計	200	*100	*100	300	300	200					1500	

【大学入学共通テストの利用教科・科目名】欄

1. 外国語の「英語」において、リーディングとリスニングを課します(リスニングが免除となった場合を除き、リーディング及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります)。
2. 「地歴」、「公民」において、2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。

【個別学力検査等】欄

1. 数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Aは、全範囲を出題範囲とします。数学Bは、数列、ベクトルを出題範囲とします。
2. 英語表現Ⅰは、リスニングを学ぶにふさわしい能力・適性等を除きます。
3. 総合問題は、システム工学を学ぶにふさわしい能力・適性等を問います。「数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B」、「物理基礎、物理」、「化学基礎、化学」で学ぶ内容の理解を前提として、これら3分野のうち2分野の問題を選択とします。

【大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等】欄

1. 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。
2. 大学入学共通テスト 外国語の「英語」において、リーディング(100点満点)とリスニング(100点満点)の合計点(200点満点)を英語の得点とします。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、リーディング(100点満点)の得点を2倍(200点満点)にしたものを英語の得点とします。

総合問題の出題内容

総合問題では、教科ごとの学習到達度だけではなく、問題に対する総合的な分析力・応用力を問います。システム工学を学ぶにふさわしい能力・適性等を判断します。

出題内容は以下のとおりとします。

学 科	出 題 内 容	注 意 事 項
システム工学科	ものごとを科学的視点でとらえ、筋道をたてて論理的に分析し、その結果を総合的に判断して表現する能力を問います。具体的には、 <input type="checkbox"/> 数学の知識をもとにした問題 <input type="checkbox"/> 物理の知識をもとにした問題 <input type="checkbox"/> 化学の知識をもとにした問題 が出題されます。	<input type="checkbox"/> 数学の知識をもとにした問題 <input type="checkbox"/> 物理の知識をもとにした問題 <input type="checkbox"/> 化学の知識をもとにした問題 上記のうち、2題を選択し解答します(選択は問題を見てから決めることができます)。

(4) 観光学部

入学者選抜実施教科・科目等

観光学部

学部・学科等名及び入学定員等	学力検査等の区分・日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等										特 別 の 入 試 方 法 等	
		教科 グループ	科 目 名 等	科 目 名 等	教科等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合 問題	小論文	実技		配点 合計
観光学部 前期 115人 後期 60 その他 0 55	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国 世B、地歴Bから1又は2 現社、倫、政経、倫・政経から0又は1 数Ⅰ、数Ⅰ・数Aから1 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報から1 物基、化基、生基、地基から2 又は 物、化、生、地 1 英 (リスニングを含む)	科目名等 総合問題 (与えられた文章を理解し、関連する資料(図、数表、グラフ、地図、英文などを含む)に基づいて、論理的に考え、判断し、論述する力を問う。観光を学術的にとらえていく上で必要な知識、思考力、表現力を備えているかを問う。)	その他	大学入学共通テスト	200	100 *100	*100	200	100	200	200	400		900	学校推薦型選抜 社会人選抜 総合型選抜 私費外国人留学生選抜
	後期		【6教科8(7)科目又は5教科8(7)科目】			計	200	100 *100	*100	200	100	200	400		1300		追加合格
						大学入学共通テスト											
						個別学力検査等											
						計											

【大学入学共通テストの利用教科・科目名】欄

以下の説明において、「数学」で【数Ⅰ、数Ⅰ・数A】を「数①」とし、【数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報】を「数②」とします。「理科」で基礎を付していない科目を「理①」、基礎を付している科目を「理②」とします。
 [前期日程]

1. 外国語の「英語」において、リーディングとリスニングを課します (リスニングが免除となった場合を除き、リーディング及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります)。
2. 「地歴」【世B、地歴B】から必ず1科目以上を受験してください。
3. 「理科」において、「理②」2科目を受験した場合は、第1解答科目の得点を採用します。
4. 「理科」において、「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、「理①」の得点のいずれか高い方の得点を採用します。

【個別学力検査等】欄

特記なし。

【大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等】欄

1. 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。
2. 大学入学共通テスト 外国語の「英語」において、リーディング (100点満点) とリスニング (100点満点) の合計点 (200点満点) を英語の得点とします。ただし、重度難聴者等でリスニングが免除となった場合は、リーディング (100点満点) の得点を2倍 (200点満点) にしたものを英語の得点とします。

(5) 社会インフォマティクス学環

入学者選抜実施教科・科目等

社会インフォマティクス学環

学部・学科等名及び入学定員等 等の区分 ・日程	大学入学共通テストの利用教科・科目名		個別学力検査等										特別の 入試方法等				
	教科 グループ	科目名等	教科 等	科目 名 等	試験の区分	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合 問題		小論文	実技	配点 合計	
社会インフォマティクス学環 前期 30人 後期 20人 その他 0人 その他 10人	国 地歴 公民 数 理 前期 2月25日	国 世A、世B、HA、HB、地理A、地理B } から2又は1 ※ 現社、倫、政経、倫・政経 ① 数I、数II・数Aから1 ② 数II、数B、簿、情報から1 理 ① 物基、化基、生基、地基から2 ※ 又は ② 物、化、生、地 から1 ※ 又は 物、化、生、地 から2 ※ 英(リスニングを含む)、独、仏、中、韓から1 【地歴】、「公民」から2科目と「理①」から2科目の組合せ 6教科8科目又は5教科8科目 【地歴】、「公民」から2科目と「理②」から1科目の組合せ 6教科7科目又は5教科7科目 【地歴】、「公民」から1科目と「理①」から2科目と「理②」から1科目の組合せ 5教科8科目 【地歴】、「公民」から1科目と「理②」から2科目の組合せ 5教科7科目	数 外	数I・数II・数A・数B コミュ英I・コミュ英II・ コミュ英III・英表I	大学入学共通 テスト	200	*100 *100	*100 *100	300 300	100 *100	300					1100	学校推薦型 選抜 追加合格
後期					計	200	*100 *100	(200) (300)	(500) (600)	100 *100	(600) (500)				1600		
					大学入学共通 テスト												
					個別学力検査 等												
					計												

【大学入学共通テストの利用教科・科目名】欄

以下の説明において、「理科」で基礎を付した科目を「理①」、基礎を付していない科目を「理②」とします。

- 外国語の「英語」において、リーディングとリスニングを課します (リスニングが免除となった場合を除き、リーディング及びリスニングの両方を受験している場合のみ、英語を受験したことになります)。
2. ※を付している「地歴」、「公民」及び「理科」において、以下のa、b、c、dのうち、いずれかの組合せとします。
 - 「地歴」、「公民」から2科目と「理①」から2科目の組合せ
 - 「地歴」、「公民」から2科目と「理②」から1科目の組合せ
 - 「地歴」、「公民」から1科目と「理①」から2科目の組合せ
 - 「地歴」、「公民」から2科目かつ「理科」において「理①」と「理②」の両方を受験した場合は、以下のa、bのうち、いずれか高得点の組合せを採用します。
 - 「地歴」、「公民」の2科目と、「理①」の2科目合計得点又は「理②」の得点のいずれか得点の高い方の組合せ
 - 「地歴」、「公民」の第1解答科目と「理①」と「理②」の組合せ
- 「地歴」、「公民」から2科目かつ「理②」から2科目受験した場合は、以下のa、bのうち、いずれか高得点の組合せを採用します。
 - 「地歴」、「公民」の2科目と「理②」の第1解答科目の組合せ
 - 「地歴」、「公民」の第1解答科目と「理②」の2科目の組合せ

【個別学力検査等】欄

- 数学I、数学II、数学Aは、全範囲を出題範囲とします。数学Bは、数列、ベクトルを出題範囲とします。
- 英語表現Iは、リスニングを出題範囲から除きます。

【大学入学共通テスト・個別学力検査等の配点等】欄

- 配点に*印を付してある教科は、選択教科を表します。
- 大学入学共通テスト 外国語の「英語」において、リーディング(100点満点)とリスニング(200点満点)の合計点(200点満点)を英語の得点とし、本学環が定めている配点に換算します。ただし、重度聴覚者等でリスニングが免除となった場合は、リーディング(100点満点)の得点を2倍(200点満点)にしたものを英語の得点とし、本学環が定めている配点に換算します。
- 個別学力検査 「数学」(200点満点)、「外国語」(200点満点)において、いずれか高得点の教科の得点を1.5倍(300点満点)し、配点合計が500点満点となるように換算します。

個別学力検査等の試験場及び試験日時

1. 試験場

和歌山大学 栄谷キャンパス(和歌山市栄谷930)

本冊子の裏表紙に本学への交通アクセスを掲載していますので、参照してください。

試験当日のバスは、JR和歌山駅前、南海和歌山市駅前、南海和歌山大学前前から定期便の他に臨時便が運行されます。混雑が予想されますので余裕を持って乗車してください。

なお、試験当日の臨時バス等の時刻表は、2月中旬頃に本学ホームページ「入試情報」に掲載を予定しています。

2. 試験日時

(1) 前期日程

令和6年2月25日(日)

日程	学部等	学 科 等	科目名等	試 験 時 間
前期	教育学部	学校教育教員養成課程「文科系」	国語	10:00~11:30
		学校教育教員養成課程「理科系」	数学	10:00~11:30
		学校教育教員養成課程 実技系「音楽又は美術」	面接	10:00~11:30
		学校教育教員養成課程 実技系「保健体育」	面接	10:00~11:30
		学校教育教員養成課程「文科系」	面接	12:40~(注1)
		学校教育教員養成課程「理科系」	面接	12:40~(注1)
		学校教育教員養成課程 実技系「音楽又は美術」の音楽選択者	実技検査	12:40~14:10(注2)
		学校教育教員養成課程 実技系「音楽又は美術」の美術選択者	実技検査	12:40~15:40
		学校教育教員養成課程 実技系「保健体育」	実技検査	12:40~18:10(注2)
	経済学部	経済学科	総合問題A	10:00~11:30
			総合問題B	12:40~13:40
	システム 工学部	システム工学科	数学	10:00~11:30
			外国語	12:40~14:10
	観光学部	観光学科	総合問題	10:00~11:30
社会インフォマティクス学環		数学	10:00~11:30	
		外国語	12:40~14:10	

(注1) 教育学部 学校教育教員養成課程「文科系」、「理科系」の面接は、各受験者の面接終了により、順次終了となります。「文科系」、「理科系」受験者の最遅終了予定時刻は16:30です。

(注2) 教育学部 学校教育教員養成課程実技系の音楽及び保健体育の実技検査における終了時間は、最長の場合の終了時間を示しています。ただし、志願者数及び進行状況により早くなる場合があります。

(2) 後期日程

令和6年3月12日(火)

日程	学 部	学 科 等	科目名等	試 験 時 間
後期	教育学部	学校教育教員養成課程「文科系」	面接	10:00～(注1)
		学校教育教員養成課程「理科系」	面接	10:00～(注1)
	経済学部	経済学科	総合問題(後期)	10:00～11:30
	システム工学部	システム工学科	総合問題	10:00～12:00

(注1) 教育学部 学校教育教員養成課程の面接は、各受験者の面接終了により、順次終了となります。最遅終了予定時刻は16:30です。

受験上の注意

共通注意事項

試験前日までの注意事項

1. あらかじめ、試験場の所在地及び所要時間を確認しておいてください。試験日の前日は入構禁止です。試験日の前日が日曜日にあたる時は、その前々日及び土曜日は入構禁止です。試験日の前日が土曜日にあたる時は、その前日は入構禁止です。
2. 遠方の受験者にとっては、大雪や風などによって飛行機、船、列車等が通常のとおり運行されない事態も起こり得ますので、あらかじめ気象状況や交通機関の運行状況を把握し、数日前から試験場近郊に滞在するなどの対応をとってください。

試験当日の注意事項

1. 試験当日は、「令和6年度和歌山大学一般選抜受験票(以下「和歌山大学受験票」)」、「令和6年度大学入学共通テスト受験票」を必ず持参・携帯し、試験場に入場する際、あるいは本学係員の指示に応じ提示してください。試験室の所定の座席に着席後は、「和歌山大学受験票」、「令和6年度大学入学共通テスト受験票」を机の上に置いてください。「和歌山大学受験票」は、表面を上につまみ折りにし印字部分が確認できるように机の上に置いてください。実技検査の場合は監督者の指示に従ってください。
2. 本学の前期日程と後期日程の両方に出願した者は、当日の試験日程と異なる受験票を誤って持参しないよう注意してください。
3. 試験当日、スマートフォン等による「和歌山大学受験票」の画面提示による受験は認めません。必ずA4サイズに印刷した受験票を持参してください。
4. 受験票を忘失・紛失した場合には、試験場入口の本学係員に申し出て再発行等の措置を受けてください。
5. 試験当日は正門(バス停)側進入路から入構してください。北側進入路(システム工学部裏側)等他の進入路からは入構できません。
6. 交通事情等を考慮し、余裕をもって試験場に到着するようにしてください。
7. 試験場内には自動車・バイク等の乗り入れはできません。
8. 付添者は、試験場内に立ち入ることはできません。
9. 試験室等の位置は、試験当日に試験場入口に掲示します。
10. 試験開始時刻の30分前までに入室してください。監督者による説明が始まります。
11. 試験室では、机に表示している受験番号が受験票の受験番号と同一であることを確認し、着席してください。
12. 遅刻した場合は、試験開始時刻後30分以内に限り受験を認めます。
13. 試験当日に公共交通機関(電車等)で事故等が生じて運行停止となるなどの事情により、試験開始時刻までに試験場に赴くことが困難な場合には、直ちに和歌山大学入試課までそのことを連絡するとともに、交通機関の事故等による事情であることが証明できる書類(公共交通機関が発行する遅延証明書等)の交付を受けてください。また、試験場入口本学係員に申し出てください。
14. 受験者入室終了時刻から試験終了までは退室は認めません。体調不良やトイレ等、やむを得ない場合は、挙手し、監督者の指示に従ってください。ただし、一時退室が認められた場合でも、休養室等での受験はできません。また、一時退室していた時間分の試験時間の延長は認められません。

試験時間中の注意事項

①所持品の取扱い

個別学力検査等試験時間中(実技検査を除く)、机の上に置くことのできるものは、「和歌山大学受験票」、「令和6年度大学入学共通テスト受験票」の他に次のとおりです。

- ・黒鉛筆(受験教科・科目によっては、和歌・格言等が印刷されているものは不可。)
- ・万年筆
- ・ボールペン
- ・シャープペンシル
- ・消しゴム
- ・鉛筆削り(電動式・大型のもの・ナイフ類は不可。)
- ・時計(時計機能のみのもの。辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマー・大型のものは不可。)
- ・眼鏡、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー(袋又は箱から中身だけ取り出したもの。)

これ以外の所持品を使用又は置いている場合には、解答を一時中断させて、試験終了まで預かることがあります。

試験時間中に、次のものを**使用してはいけません**。

- ・定規(定規の機能を備えた鉛筆等を含む。)、コンパス、電卓、そろばん、グラフ用紙等の補助具
- ・携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類

これらの補助具や電子機器類をかばん等にしまわず、**身に付けていたり手に持っている**と不正行為となることがあります。

1. 試験時間中に使用してはいけない電子機器類は、試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切っておいてください。時計の代わりとして利用することを禁じます。
2. 飲み物等はかばんに入れてください。
3. 所持品、コート類は、各自机の横の床上に整理して置いてください。机の中は利用できません。
4. 寒い場合は、コート類を着用しても差し支えありません。
5. 英文字や地図等がプリントされている上着等の着用は認めない場合があります。
6. 試験中、受験者間での物品の貸借を禁じます。

②解答上の注意事項

1. 出願時に届け出た科目以外を受験することはできません。
2. 問題冊子や解答用紙に不備があれば、挙手して監督者に教えてください。
3. 解答用紙の所定の位置に受験番号を記入しなかった又は誤記入した場合、当該解答用紙は無効とする場合があります。
4. 不正行為が判明した場合は、不正行為を行った受験者の受験の中止と退室を命じ、その後の受験を認めません。また、本学の当該試験日程で受験した全ての個別学力検査等の成績を無効とします。
5. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。解答用紙は持ち帰れません。

その他の注意事項

最寄りの駅、バス停、和歌山大学周辺等での合否電報(電子メールを利用した合否連絡等の類似行為を含む)の予約等について、本学は一切関与しておりません。

不測の事態が生じた場合の対応

公共交通機関の大幅な乱れ、自然災害の影響、感染症の感染拡大等により、所定の日程や選抜方法による試験実施が困難となるような不測の事態が生じた場合は、本学ホームページにてお知らせします。

和歌山大学ホームページ「入試情報」 <https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>

不正行為の取扱い

① 次のことをすると不正行為となります。不正行為が判明した場合は、不正行為を行った受験者の受験の中止と退室を命じ、その後の受験を認めません。また、本学の当該試験日程で受験した全ての個別学力検査等の成績を無効とします。

- ア 出願書類等、解答用紙へ故意に虚偽の記入(出願時に本人以外の写真データを登録することや解答用紙に本人以外の氏名・受験番号を記入するなど。)をすること。
- イ カンニング(試験の教科・科目に関係するメモやコピーなどを机上等に置いたり見たりすること、教科書、参考書、辞書等の書籍類の内容を見ること、他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど。)をすること。
- ウ 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- エ 配付された問題冊子を、その試験時間が終了する前に試験室から持ち出すこと。
- オ 解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- カ 「解答はじめ。」の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
- キ 試験時間中に、定規(定規の機能を備えた鉛筆等を含む。)、コンパス、電卓、そろばん、グラフ用紙等の補助具を使用すること。
- ク 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類を使用すること。
- ケ 「解答やめ。筆記用具を置いてください。」の指示に従わず、鉛筆や消しゴム等の筆記用具を持っていたり解答を続けること。

② 前記①以外にも、次のことをすると不正行為となることがあります。指示等に従わず、不正行為と認定された場合の取扱いは、①と同様です。

- ア 試験時間中に、定規(定規の機能を備えた鉛筆等を含む。)、コンパス、電卓、そろばん、グラフ用紙等の補助具や携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末、電子辞書、ICレコーダー等の電子機器類、教科書、参考書、辞書等の書籍類をかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っていること。
- イ 「和歌山大学受験票」の表面及び裏面に不要な印字等がある場合
- ウ 試験時間中に携帯電話や時計等の音(着信・アラーム・振動音など。)を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。
- エ 試験に関することについて、自身や他の受験者が有利になるような虚偽の申出をすること。
- オ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- カ 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- キ その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

受験者の宿泊について

受験者の宿泊については、本学では斡旋しません。各自で手配してください。

合格者発表

下記の合格者発表日時に、全学部・学環の合格者の受験番号を本学ホームページに掲載するとともに、合格者には合格者発表日午前中に「合格通知書」及び「入学手続案内等」を送付します。不合格者への通知は行いません。

なお、合否等の電話・メール等による問合せには応じません。

試験日程区分	日 時
前期日程	令和6年3月6日(水) 午前9時
後期日程	令和6年3月21日(木) 午前9時

和歌山大学ホームページ「入試情報」

<https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>

掲載開始時間は多少前後することがあります。

掲載期間中は、インターネット回線の混雑により本学ホームページに繋がりにくいことがあります。

入学手続

合格通知を受けた者は、入学手続期間内に入学手続を行ってください。入学手続の詳細は、合格通知書とともに送付する「入学手続案内」で指示します。

入学手続方法

「入学手続案内」を熟読の上、必要書類等を整え、書留速達で入学手続【時間厳守】までに本学必着するように郵送してください。ただし、入学手続期限日の15時～17時に限り、「持参による方法」での受付を行います。

入学手続期限

試験日程区分	日 時
前期日程	令和6年3月15日(金) 17時まで本学入試課必着
後期日程	令和6年3月27日(水) 17時まで本学入試課必着

提出書類

提出書類	備 考
大学入学共通テスト受験票	照合し、入学手続完了後押印の上、返却します。
和歌山大学受験票	照合し、入学手続完了後返却します。
合格通知書	照合し、入学手続完了後返却します。
入学料	282,000円 (下記注1～4参照) 本学所定の振込依頼書により、入学手続時までに納入してください。 令和6年度入学者の納入金額及び納入方法の詳細は「入学手続案内」でお知らせします。
その他	上記以外の必要書類は、「入学手続案内」で指示します。

注1 上記記載の金額は、令和5年4月現在のものです。

注2 入学料の改定が行われた場合には、改定後の金額を納入することになります。

注3 既納の入学料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

(ア) 誤って二重に納入した場合*

(イ) 入学手続を行わなかった又は完了しなかった場合*

* 返還にかかる振込手数料を差し引いた額の返還となります。

注4 入学料の納入のみでは、入学手続を完了したことにはなりません。

入学前の主な諸経費(単位：円)

諸 経 費	教育学部	経済学部	システム工学部	観光学部	社会インフォマティクス学環
学会費・同窓会費・後援会費	37,000	52,000	32,000	52,000	49,000
研修・実習経費		10,000		5,000	
学生団体諸会費	20,500	20,500	20,500	20,500	20,500

注1 上記記載の金額は、令和5年4月入学者のものです。令和6年4月入学者の納付金額については、決定次第、別途お知らせします。

入学後に必要な納付金

授業料 半期分 267,900円 年額 535,800円

注1 上記記載の金額は、令和5年4月現在のものです。

注2 在学中に授業料の改定が行われた場合には、改定時から新授業料が適用されます。

注3 令和6年度入学者の納付金額については、決定次第、別途お知らせします。

入学手続に関する注意事項

1. 入学手続期限までに入学手続を完了しない場合は、本学への入学を辞退したものと取り扱います。
2. 本学の入学手続を完了した者は、これを取り消して他の国公立大学・学部等(※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部等を除く)に入学手続をすることはできません。また同様に、他の国公立大学・学部等(※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部等を除く)に入学手続を完了した者は、これを取り消して本学に入学手続をすることはできません。
3. 「前期日程」合格者が入学手続を完了した場合は、国公立大学・学部等(※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部等を除く)の「公立大学中期日程」、「後期日程」を受験しても、当該大学の合格者にはなりません。
4. 入学手続完了後、高等学校等の課程を卒業(修了)しないなどの事由が生じた場合は、入学許可を取り消します。許可を取り消した場合は、入学料の返還はできません。
5. 入学手続完了後、理由の如何に関わらず入学を辞退する場合は、**令和6年3月31日(日) 17時までに「入学辞退願」を本学入試課に提出し、その許可を得てください。**入学手続完了後に入学を辞退した場合は、入学料の返還はできません。また、入学料免除申請を行って入学手続を完了していた場合は、直ちに入学料をお支払いいただきます。令和6年3月31日(日) 17時を超えての「入学辞退願」は受付しませんので注意してください。

欠員補充

合格者又は入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、「追加合格」又は「欠員補充第2次募集」による欠員補充を行うことがあります。

追加合格又は欠員補充第2次募集実施の有無の情報提供

本学ホームページ「入試情報」<https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>で全学部の追加合格又は欠員補充第2次募集の実施の有無をお知らせします。

【追加合格の実施の有無 掲載期間】

令和6年3月28日(木) 午前9時～3月31日(日)まで

【欠員補充第2次募集実施の有無 掲載期間】

掲載日時未定

掲載開始時間は多少前後することがあります。

追加合格

1. 入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、前期日程又は後期日程のいずれかの選抜の不合格者の中から合格者の追加を行うことがあります。
2. 他の国公立大学・学部等(※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部等を除く)に入学手続を完了した者は、それを取り消して本学への入学手続を行うことはできません。
なお、本学の前期日程合格者のうち入学手続を完了しなかった者は、当該学部・学環の前期日程の追加合格の対象となりません。
また、本学の後期日程合格者のうち入学手続を完了しなかった者は、当該学部の後期日程の追加合格の対象となりません。
3. 追加合格候補者には、令和6年3月28日(木)から3月31日(日)までの間に、出願時に登録した「追加合格連絡先」へ、電話等により直接本人に対してのみ行います。本学からの連絡が確実に受けられるよう所在を明らかにしておいてください。
4. 追加合格候補者は発表しません。電話等の問合せには応じません。
5. 出願後、出願時に登録した「追加合格連絡先」に変更がある場合は、速やかに和歌山大学入試課に届け出てください。
6. 本人の不在や「追加合格連絡先」の変更の届出がないなどの理由により、追加合格候補者の通知ができなかった場合は、追加合格者としての取扱いが無かったものとする場合があります。

欠員補充第2次募集

合格者又は入学手続完了者が入学定員に満たない場合は、必要に応じ「欠員補充第2次募集」を行うことがあります。

なお、実施する場合の募集人員、出願資格、出願期間、出願手続、入学者選抜方法、合格者発表及び入学手続等は、本学ホームページ「入試情報」に掲載する「欠員補充第2次学生募集要項」により確認してください。

個人情報取扱

本学が保有する個人情報は、「個人情報の保護に関する法律」等の法令を遵守するとともに、「国立大学法人和歌山大学における個人情報の保護に関する規程」等に基づき、厳密に取り扱います。

1. 出願書類等に記載された個人情報は、「入学者選抜(出願処理、選抜試験実施)」、「合格者発表」、「入学手続」の入試業務、「入試の改善や志願動向等の調査・研究」、「その他の本学における諸調査・研究等」を行うために利用します。出願書類等に不備があった場合には、その訂正・補完を迅速に行っていただくために、本学に出願していることを、保護者等又は出身学校に連絡する場合があります。
なお、入学者については、「入学者の受入準備」、「教務関係(学籍管理、修学指導等)」、「学生支援関係(健康管理、授業料免除・奨学金業務、就職支援等)」、「授業料等収納業務」を行うために利用します。
2. 国公立大学の分離分割方式による合格及び追加合格決定業務を円滑に行うため、氏名、性別、生年月日、高等学校等コード及び大学入学共通テストの受験番号に限り、合否及び入学手続等に関する個人情報が、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。
3. 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、「入試結果の集計・分析」、「入学者選抜方法の調査・研究」及び「学生支援関係(授業料免除・奨学金業務等)」を行うために利用します。
4. 一部の業務を外部の事業者へ委託する場合があります。この場合、外部の事業者と個人情報の取扱いが適切に行われるよう契約を結んだ上で、当該事業者に対して個人情報を提供します。
5. 捜査機関等が捜査上必要とした場合等、行政機関等が法令に定める業務等を行うに必要な限度で利用することについて、相当の理由があるときに、当該行政機関に個人情報を提供します。

入試情報の開示

志願者数・受験者数・合格者数・追加合格者数・入学者数

和歌山大学ホームページ「入試情報」<https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>でお知らせします。

合格者の最高点・最低点及び合格者平均点

募集単位ごとに、合格者の最高点・最低点、合格者平均点を、大学入学共通テストと個別学力検査等の総合点で令和6年4月以降準備が整い次第、本学ホームページ上で開示します。ただし、募集人員又は合格者のいずれかが10人以下の入試については開示しません。

正解・解答例、出題の意図

令和6年度入試で出題した教科・科目等の正解・解答例又は出題の意図を、令和6年4月以降準備が整い次第、開示します。

入試成績等の開示

(共通事項)

令和6年度一般選抜を受験した者に限り、開示します。代理人による申請は認めません。

(注意)

次の受験者の合格者選考の対象とならない選抜日程の成績は、開示請求をしても開示しません。

- ・各学部・学科等が指定する令和6年度大学入学共通テストの教科・科目及び出願時に届け出た個別学力検査等の教科・科目を1つでも受験しなかった者
- ・国公立大学・学部等(※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部等を除く)の学校推薦型選抜合格者で入学手続を行った者又は当該大学の許可を得ずに入学を辞退した者で前期日程受験者・後期日程受験者
- ・国公立大学・学部等(※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部等を除く)の総合型選抜合格者で入学手続を行った者又は当該大学の許可を得ずに入学を辞退した者で前期日程受験者・後期日程受験者
- ・国公立大学・学部等(※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部等を除く)の前期日程に合格し、入学手続を行った後期日程受験者

(試験成績)

1. 申請期間・指定曜日、窓口時間及び申請先

令和6年5月から6月の2か月間。調査書のみ、この期間の月曜日から水曜日(祝祭日を除く)の9時から17時(12時から13時を除く)。

和歌山大学入試課 〒640-8510 和歌山市栄谷930

2. 申請方法

- ① 令和6年4月22日以降に本学ホームページ(トップ→入試情報→その他の案内→入試成績等の開示)に掲載する「試験成績開示申請書」をダウンロードし、A4サイズに印刷し、必要事項を記入してください。
- ② 「3. 提出書類」を取り揃えてください。
- ③ 申請期間を確認し、申請先に郵送により申請してください。持参による申請は受付しておりません。ただし、調査書に限っては、閲覧開示のため、持参により申請してください。
- ④ 本学への3. 提出書類①～④を郵送する封筒には「一般選抜 前期(又は後期)日程成績開示請求」と朱書きし、令和6年6月28日(金)17時までに必着となるよう郵送してください。

3. 提出書類

- ① 「試験成績開示申請書」
- ② 「令和6年度和歌山大学受験票」原本 前期日程 又は 後期日程 (開示申請する日程)(注1)
- ③ 「令和6年度大学入学共通テスト受験票」原本(注1)
- ④ 「返信用封筒(角形2号:24cm×33.2cm)に、申請者(受験者)の郵便番号・住所・氏名を記入し、470円分切手を貼付したもの」注2～7参照

注1. 上記受験票は、確認後開示内容とともに返却します。

注2. 返信用封筒の宛名は必ず受験者本人としてください。受験者本人以外には発送できません。

注3. 返信用封筒に貼付する切手は、重ねて貼付しないでください。

注4. 前期日程と後期日程の両方の入試成績を開示申請する場合も、返信用封筒は1枚で構いません。

注5. 返信用封筒「角形2号(24cm×33.2cm)」のサイズは厳守してください。指定されたサ

イズ以外の場合、郵便料金の不足により開示に応じられません。

注6. 返信用封筒に470円分切手を貼付していない場合、切手が不足している場合、提出書類を同封していない場合、書類不備の場合は、「申し込まない」者として処理します。

注7. 郵便料金が改定された場合は、改定後の定形外郵便物簡易書留料金分(50g以内)の切手を返信用封筒に貼付してください。

4. 開示内容

得点	(a) 大学入学共通テスト総合点(本学所定の換算点) (b) 個別学力検査等科目別得点 (c) 個別学力検査等合計点 (d) 総合点：(a)+(c)
順位	当該募集単位における順位 ただし、募集人員又は合格者のいずれかが10人以下の入試については開示しません。

5. 開示方法

申請必要書類受理後、申請時に提出された返信用封筒により、およそ1か月以内に「簡易書留」郵便にて郵送します。調査書は持参による申請、閲覧開示のため郵送されません。

(調査書)

客観的な数字・記号、客観的事実が記述されている部分のみを**閲覧開示**します。「総合的な学習の時間の内容・評価」、「特別活動の記録」、「指導上参考となる諸事項」、「備考」を除きます。申請期間・指定曜日、窓口時間、申請先、申請方法、提出書類は試験成績に準じます。ただし、開示は閲覧のみのため、**申請方法は「持参による方法」のみとなります。**

学部等の紹介

1. 教育学部

教育学部は、その前身を明治初期に発足した師範学校に置き、現在に至るまで150年近くの歴史を持った本学でもっとも古い学部です。昭和24年(1949年)に新制和歌山大学となり、一貫して教員養成を通じた地域社会への貢献に努めてきました。

令和3年(2021年)、文部科学省の中央教育審議会は「令和の日本型学校教育」として全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現を掲げました。この背景には、教育を取り巻く環境の変化、たとえば公立小学校における特別支援学級の増加や教科担任制の導入、ICTを活用した多様な学びへの対応など、現在の学校教員に幅広い専門性が求められている現状があります。また、児童・生徒数の減少による小・中学校の小規模校化が都市部においても進行している和歌山県では、小規模校教育に対応できる教員を養成することが喫緊の課題となっています。

本学部では、これらの教育課題と向き合いながら、「地域とともに学びの未来を拓く教師」を育てるため、**令和5年(2023年)度より学校教育教員養成課程を改革し、学校教育コース・支援教育コースの2つのコースを設置しました。**

学校教育コースは、子どもの発達や教科のつながりを理解し、現代的教育課題の解決に取り組む学校教員の養成を、支援教育コースは、特別な教育的ニーズを有する子どもの特性を多角的に理解し支援できる学校教員の養成をそれぞれ目指しています。

本学部の教員養成カリキュラムは、すべての学生による小学校教諭1種免許状の取得を土台として、4年間にわたり理論と実践を往還しながら子どもと教育に関する専門的な分野について学びます。新しいカリキュラムでは、新たにコース共通科目を設定します。コース共通科目では、教育学部に所属するすべての学生が学ぶ初年次教育に加え、さまざまな教育課題をテーマにした授業を多く配置することで、現在の学校をとりまく多種多様な事象を多面的・多角的に学ぶ機会を設けます。また3年次後期には、さまざまな校種の学校園や小規模校における教育実習、学生自身が計画した各種体験活動、留学や資格取得等に専念することもできる期間を新たに設定します。これらを通して、地域とともに学びの未来を拓く教師としての基盤の獲得を目指します。

学校教育コース

このコースは、子どもの発達・教科のつながりや、小中接続や幼小接続といわれる学校間のつながりを捉え、現代的教育課題の解決に取り組む学校教員の養成を目的としています。

カリキュラムは、小学校教諭1種免許状の取得を土台として、4年間にわたり理論と実践を往還しながら子どもと教育に関する専門分野を深く学ぶことで、各教科・領域の指導法や今日の教育課題に対応できる力量の基盤を身につけます。あわせて、中学校・高等学校教諭免許状の取得を意識した教科教育の分野では、学校における各教科の内容及び指導法に関する高い力量を身につけます。

このコースの卒業要件として、小学校教諭1種免許状の取得が課せられます。さらに幼稚園又は中学校・高等学校、特別支援学校の教育職員免許状の複数取得によって総合的な教育力を兼ね備えた教員を目指し、より専門性の高い校種と教科を選択し専攻していくことを推奨しています。卒業後の進路は、小学校の教員をはじめ、中学校・高等学校・幼稚園・特別支援学校の教員のほか、大学院進学などがあります。

支援教育コース

このコースは、特別な教育的ニーズを有する子どもへの支援ができるための専門的な知識及び技術の獲得を目的としています。

カリキュラムは、通常の教師としての資質を高めながら、4年間にわたり特別な教育的ニーズを有する子どもの特性を深く理解するために特別支援教育に関する知識及び技術を学ぶとともに、教育の時代的な変化の背景にある教育の原理についても学ぶことで、表面的なスキルの修得に終わらない深い学び

を目指します。さらに子どもと接する機会を多く設けることで、理論と実践を往還しながら学ぶことができる授業を展開しています。

このコースの卒業要件として、小学校教諭1種免許状及び特別支援学校教諭1種免許状の取得が課せられます。なお、本人の希望により、他の各教科の教育職員免許状も取得可能です。卒業後の進路は、特別支援学校の教員をはじめ、小学校・中学校・高等学校・幼稚園の教員のほか、大学院進学などがあります。

2. 経済学部

本学部は、1922年(大正11年)に創立された旧制和歌山高等商業学校以来の伝統を受け継ぎ、100年にわたって社会に多くの優れた人材を送り出してきました。この間、時代と社会の要請にこたえながら、経済社会の理解に不可欠な学問分野である経済学、経営学、会計学、情報学、法学の教員を揃え、論理的思考力、専門知識、実務能力、幅広い教養を有する人材の養成に努めてきました。卒業後の進路は、金融・製造・流通・情報・公務など多様な業種にわたり、昨今の厳しい就職状況下でも就職率は高い水準を保っています。また、本学大学院経済学研究科修士課程に進学する学生もいます。優秀な成績を修めた学生は、3年次修了時点で大学院に進学できる制度が設けられています。

近年の多様化・複雑化する社会においては、複数の学問分野にまたがる専門知識を活用し、一人ひとりが他の人と協力しながら問題を発見・解決する能力が求められています。そのような能力・資質を身につけるために、本学部のカリキュラムは、経済学、経営学、会計学、情報学、法学の各学問領域での体系的な学修に加え、これらのうちのいくつかの学問領域の学修を組み合わせています。その上で、卒業後の進路において必要となる専門知識や実務能力などを考慮して横断的な学問領域における授業科目を体系化しています。学生は初年次から将来の自分の姿を思い描きながら主体的・計画的に学修を進めます。このカリキュラムでは、学修目標とそれによって目指せる可能性のある代表的な進路を想定し、次の「プログラム」及び「プログラム」に所属しつつ更に専門的な学修を極める「エキスパート・コース」を設けています。

「グローバル・ビジネス&エコノミー」

グローバルな視点から経済領域・経営領域で種々の課題に対応できる能力を身に付け、グローバル企業、国際機関、NPO・NGOなどにおいて中心的な役割を担える人材となることを目指します。

「ビジネスデザイン」

新たな視点から事業、企業の再活性化に取り組める能力を身に付け、企業の企画部門などにおいて、高い企画力を持って組織変革や業務改善を担える人材や、起業家などを目指します。

「企業会計・税法」

会計学及び税法の視点からの実務能力を身に付け、企業の経理・財務部門において、会計・法制度の知識をもとに組織活性化の支援に取り組む人材や、税理士、公認会計士、不動産鑑定士、国家・地方公務員などを目指します。

「地域公共政策・公益事業」

地域社会における課題解決能力を身に付け、地域の活性化を支援する国家・地方公務員や、公益性の高い事業主体の職員などを目指します。

「サステイナブル・エコノミー」

経済における持続可能性を実現できる多様性・柔軟性を有する能力を身に付け、企業のCSR関連部門、社会的企業、環境NGO・NPOなどにおいて、多様な利害関係者と各組織の橋渡ししとなれる人材と

なることを目指します。

「エキスパート・コース」

3つのユニット(「グローバル・ビジネス&エコノミーユニット」「都市と地域ユニット」「市場・企業分析ユニット」)から希望するユニットを選択し、それぞれの専門分野の研究に必要な基礎的能力を修得します。それをふまえて大学院進学を目指します。

3. システム工学部

システム工学部システム工学科の特色

近年、科学技術の急速な発展に伴い、様々な工業技術が高度化・専門化してきました。また一方で、複数の専門分野の成果を複合的・横断的に応用することが、新しい技術開発や地域産業の再生につながるようになってきました。つまり、現在社会において、「高度な専門性」と「複数の技術領域を見通す力」の両方が求められています。このような産業界や社会の要請に、より柔軟に対応できるように、システム工学部では、それまでの5学科を1つの学科(システム工学科)に統合し、10の教育研究課程(メジャー)を設けました。これにより、学生自らが将来を志向し、各自の興味や資質に見合った2つのメジャーを主体的に選択すること(ダブルメジャー制)でコースを構成し、複数の専門分野を学ぶことができるようになりました。

さらに将来に目を向けると、情報関連技術を基盤とする先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立していく新たな社会であるSociety 5.0に対応できる工学人材を創出することも求められるようになってきています。これを受けてシステム工学部では、令和5年度に向け、将来にわたる技術動向を精査して、メジャーを3つの大きな専門分野の括り(領域)に分類し、これまでの10メジャーを8メジャーに再編しました。主な特色として、情報教育を重視し、更なる充実を図るとともに、システム工学科で共通化します。これにより、専門分野にかかわらず、情報技術をベースとした広範かつ柔軟な専門性を養うことができます。また、2年終了時に、学部のみでの4年制に加えて、学部から大学院博士前期課程までの一貫教育である6年制に進む選択も可能とします。6年制では、より高度かつ実践的な専門教育を行うことにより、複数の専門技術を有機的に融合させて課題の解決に導く能力をさらに高めることができます。なお、再編後もこれまでどおり、ダブルメジャー制によって、領域にとらわれずに複数の専門分野について学修することができます。

以下に、各メジャーの教育目的とメジャーの組み合わせによるコースをいくつか示します。

・ロボティクスメジャー

ロボットなどに代表されるメカトロニクス機器を効率的に設計し安全に運用するための技術を身につけます。対象となる分野は幅広く、ソフトウェアからハードウェアまで、機械+電気+情報についてバランスよく学びます。

・電子物理工学メジャー

物理学、光工学、電気電子工学、材料工学などの分野を扱います。物質科学に関する基礎を身につけた上で、フォトンクスやエレクトロニクスの材料開発から応用技術を学びます。

・化学メジャー

身の回りでは、原子や分子の結びつきにより生命活動や様々な物質・材料形成が行われています。このような生命活動に関わる物質や、身の回りの物質・材料の性質を理解し、その創造や性能の発現、産業への応用に関する技術について学びます。

・環境科学メジャー

環境を守り、育て、次世代に継承する人材の育成をめざして、環境破壊を未然に防ぐ、自然災害か

ら命や暮らしを守る、地球温暖化に対応する、美しい風景を創造するなど、持続可能な社会の実現に貢献するための知識と技能を学びます。

• **建築・ランドスケープメジャー**

環境に配慮した建築について、インテリアデザインから都市計画まで、身近な自然から森林まで、様々なスケールや地域における環境と生活空間を対象として、自然と調和する技術や建築設計、地域づくりについて学びます。

• **情報システムデザインメジャー**

人や社会を豊かにする情報システムを企画・設計・開発する能力を身につけます。情報技術に支えられた社会の仕組みを知り、新しい情報システムの可能性を探求するために、ソフトウェア開発や高度なコミュニケーションについて学びます。

• **ネットワークコンピューティングメジャー**

あらゆる人やモノがネットワーク接続されるデジタル社会において、人や社会を守り、新たな価値を創造する技能を身につけます。インターネットやモバイル通信だけでなく、センサを社会活用するIoT、情報セキュリティ、ネットワーク分析等について学びます。

• **クロスリアリティ・情報デザインメジャー**

現実世界と仮想世界(メタバース)が融合する時代に向けて、現実世界に働きかけるロボティクス、メタバースを実現するコンピュータグラフィックス(CG)、それらと人を繋ぐ仮想現実(VR)、拡張現実(AR)、ならびに情報デザインについて学びます。

代表的なコースとそれを構成するメジャー、期待される就職先

コース名	メジャー名	期待される就職先
メカトロニクス	<ul style="list-style-type: none"> ロボティクス 電子物理工学 	機械、電機、自動車、精密機械、光学、医療応用機器、電子部品
知能機械システム	<ul style="list-style-type: none"> ロボティクス 情報学領域から1つを選択 	自動車、電機、精密機械、生産機械、医療機器、情報通信産業、サービス産業
ナノテクノロジー	<ul style="list-style-type: none"> 電子物理工学 化学 	半導体・電子部品、精密機器、化学・医薬品・化粧品、素材
先端情報ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 情報システムデザイン ネットワークコンピューティング 	情報通信産業を含む幅広い産業におけるソフトウェア・インフラ・AI・ネットワーク・セキュリティエンジニア
社会情報システム	<ul style="list-style-type: none"> ネットワークコンピューティング クロスリアリティ・情報デザイン 	情報通信産業を含む幅広い産業におけるネットワーク・インフラ・AI・CG/VR/ARエンジニア、UX/UIデザイナー
創造情報デザイン	<ul style="list-style-type: none"> クロスリアリティ・情報デザイン 情報システムデザイン 	情報通信産業を含む幅広い産業におけるソフトウェア・AI・Web・CG/VR/ARエンジニア、UX/UIデザイナー

コース名	メジャー名	期待される就職先
環境デザイン	・環境科学 ・建築・ランドスケープ	公務員(土木、建築、造園)、建築・住宅、環境プラント
環境化学	・環境科学 ・化学	化学・環境職公務員、環境プラント、化学メーカー

○システム工学部では、スーパーサイエンティストリーチャープログラムを設けます。これはシステム工学部卒業後、本学教育学研究科専門職学位課程(教職大学院)に進学し中学校理科又は中学校数学の教員免許の取得を目指すプログラムです。

4. 観光学部

21世紀は「観光の時代」。世界のあらゆる国や地域で最も有望な成長分野として注目されるのが観光です。日本においても観光は戦略産業と位置づけられ、官民一体での「観光立国」実現に向けた政策や取組が加速するなか、観光産業や行政の現場と密接に連携しながら、新しい観光学の創造及び観光を支えるに相応しい豊かな教養と専門性、さらにはグローバル時代に対応したハイレベルな国際的・学際的視点を有する観光人材の輩出がますます期待されています。和歌山大学観光学部は、観光教育研究における日本の、そしてアジアの拠点として、これらの人材養成に応えるべくさらに進化します。

観光学部の特色

- ①観光学は人間の生活・文化に関わるあらゆる分野を総合した学問であることから、人文・社会科学から自然科学までの幅広い分野を融合的・横断的に学ぶことのできる充実したカリキュラムを用意しています。
- ②最先端の観光理論を学ぶことはもちろん、教員と学生が自治体と連携して地域課題の解決に取り組むプログラムや海外の連携大学等と共同で取り組むエリアスタディ等の機会を通じて、社会の各方面から即戦力として期待される実践力が身につきます。
- ③ハイレベルな観光人材に相応しい教養の醸成を重視し「観光プロデュース論」「日本文化演習」などユニークな実践科目を配置するほか、「Global Program(GP2.0)」の導入を通じて国際化時代における言語面でのバリアフリー化を進めます。

5. 社会インフォマティクス学環

社会インフォマティクス学環の特色

私たちの暮らしている社会は、最近の感染症の影響に限らず、気候変動や新しい技術など、様々な要因によって変化をつづけています。こういった変化の中で社会的課題にうまく対応するには、情報化社会のビッグデータから正しい情報を得るための情報処理力と、社会を支える経済・ビジネス・行政活動において適切な対応を行うための社会科学に基づく分析力が必要です。我が国が目指す新しい社会では、データの収集や分析だけでなく、得られた情報から新たな価値や方向性を創造し、社会に向けて発信できる人材が求められます。社会インフォマティクス学環は、文理融合の、すなわち、社会(経済、産業、文化など社会の多様な概念や実態)に対してインフォマティクス(情報技術により分析・把握、変革)を実践する人材の育成を目的とし、社会インフォマティクス人材の育成に向けて、次のような特色ある教育を実践していきます。

- ①和歌山大学の学部を横断した教育：経済学部・システム工学部・観光学部が密接に連携し分野横断的な知識や能力を身につける教育を実現します。
- ②実データを活用した教育：地方自治体、総務省統計局統計データ利活用センター、企業等有する

実データを用いた実践教育を行います。

- ③自治体や企業等と連携した実践的な教育：自治体や企業等と連携し、社会における課題解決に資する実践的な教育を実施します。
- ④少人数教育による充実したサポート体制：入学定員30名に対し、担当教員は15名と充実したサポート体制で教育にあたります。学生と教員との距離も近く、学生個人の能力にあわせたきめ細かな教育を実施します。

授業科目は卒業までに(1)ビジネスサイエンス力、(2)データ利活用力、(3)企画力・実践力・発信力の3つの能力を身につけることを目的に設定されています。また、その内容は汎用性を身につけるために経済学・観光学を中心とした社会科学とデータサイエンスや情報学を中心とした工学の基盤となる科目から始まり、専門性を高めることを目標とした4つの応用領域からなる科目群を用意しています。

- ①地方自治&産業系科目群：地方国立大学で培った地域活性化やデータを利用したノウハウを学生に教授し、国内外に発信していくことを目標とする。
- ②エネルギービジネス&ファイナンス系科目群：ファイナンスのデータ分析・評価の裏付けを教授し、実践的なDX人材やグリーン人材を輩出することを目標とする。
- ③観光サービス系科目群：観光サービス系科目では多様な人々とデータの活用を通してコミュニケーションの取れる協働性があり企画力を発揮する人材を涵養することを目標とする。
- ④インフォマティクス系科目群：データサイエンスからインテリジェンスへの変革を教授し、社会科学を理解し技術的専門性を実践できる人材を目標とする。

これにより、

- ①情報技術に強い、公務員や地域活性化に資する人材
- ②情報技術に強い、グリーン人材やエネルギー人材
- ③情報技術に強い、マーケティングや観光サービス人材
- ④社会問題のファンダメンタルな分析に強い、情報処理やDX人材

が養成され、地方自治体、エネルギー産業、金融業、商社、コンサルティングファーム、観光ビジネス、IT企業等への就職が目指せます。

さらに、学びを定着させ社会実装力を養うために、早い段階から「プロジェクト方式による実践的な演習」や自治体や企業等と連携した実践的な社会課題解決を行う「実践セミナー」を設けています。これらにより、本学環はこれからの時代に必要な人材育成の場となっています。

学生生活

(1) 入学科・授業料免除

令和2年4月1日より、文部科学省による高等教育の修学支援新制度が始まり、本学は文部科学省より令和元年9月20日大学等における修学支援に関する法律(令和元年法律第8号)による修学支援の対象機関となる大学として確認いただいております。

このことにより、高等教育の修学支援新制度による奨学金がプラスされた入学科・授業料免除を実施します。

詳細は、学生センターホームページ(授業料/経済援助ページ)をご覧ください。

<https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/fee/>



(2) 奨学金

日本学生支援機構奨学金(給付奨学金・貸与奨学金)

詳細は、学生センターホームページ(授業料/経済援助ページ)をご覧ください。

<https://www.wakayama-u.ac.jp/scenter/fee/>

(3) 下宿・アパート

市街地及び大学周辺のアパート・マンション等の斡旋は、和歌山大学消費生活協同組合専属提携店(073-456-4155)でも行っていますので、各自問い合わせてください。なお、平均的な物件の家賃は月額35,000～45,000円程度です。

(4) ノートパソコンの準備

本学では、個人所有のノートパソコンを活用した授業が実施されています。また、履修登録やレポート及び論文の作成・提出など数多くの機会にパソコンとインターネットを活用しますので、入学までに各自でノートパソコンを必ずご準備ください。

なお、本学ではMicrosoftと包括ライセンス契約を結んでおり、Microsoft 365(Word, Excel, PowerPoint 他)を在学中無償で利用することができます。また、学内には無線LANを整備していますので、在学中自由に利用することができます。

詳細につきましては、下記ホームページにて随時公開すると共に入学手続き時に改めて案内します。

https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/essential_pc/



(5) 学生生活に関する問合せ先

問合せ事項	問合せ先
入学科免除、授業料免除	学生センター (学生支援課) TEL 073-457-7128
奨学金	学生センター (学生支援課) TEL 073-457-7110
ノートパソコンの準備	学術情報センター(学術情報課) TEL 073-457-7177

一般選抜に関する問合せ先

和歌山大学

入試課

〒640-8510 和歌山市栄谷930

TEL 073-457-7116

〈注意〉

- ・本入試に関する全ての事項は、志願者本人がこの学生募集要項を熟読することによって、必ず本人の責任で確認してください。
- ・この学生募集要項以外に重要な通知がある場合は、本学ホームページの「入試情報」(<https://www.wakayama-u.ac.jp/admission/>)でお知らせします。
- ・電話での照会は、祝日及び年末年始(12月29日～1月3日)を除く、月～金曜日の9時から17時(12時から13時は除く)に、この学生募集要項を手元に置き、必ず志願者本人が行ってください。